

Ⅱ. 市民 調査結果

■回答者の属性

1. 男女平等について

(1)男女平等の実現状況

2. 家庭について

(1)性別役割分担意識について

(2)家事時間・育児時間・介護時間

3. 職業について

(1)現在の職業状況

(2)女性が仕事を続ける上での障害

(3)男性の育児休業・介護休業

4. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について

(1)ワーク・ライフ・バランス

5. 子育てと教育について

(1)子どものしつけ

6. 防災について

(1)男女協働参画の視点からの防災

7. 政策決定の場への女性の参画について

(1)女性の意見の政策への反映状況

(2)女性委員が少ない現状

8. 男女間の暴力について

(1)DVドメスティックバイオレンスを受けた経験[被害]

(2)DVドメスティックバイオレンスをした経験[加害]

(3)性暴力を受けた経験

(4)伊万里市女性相談

9. 性的少数者(LGBT)について

(1)LGBTについての社会的意識

(2)パートナーシップ制度について

10. 市として取り組むべき方策について

(1)男女協働参画社会実現のために取り組むべき方策

11. 条例と宣言都市について

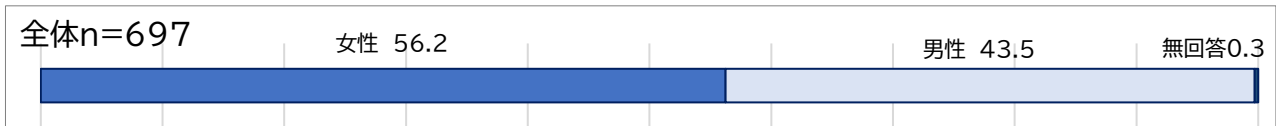
(1)男女共同参画宣言都市

(2)男女協働参画を推進する条例

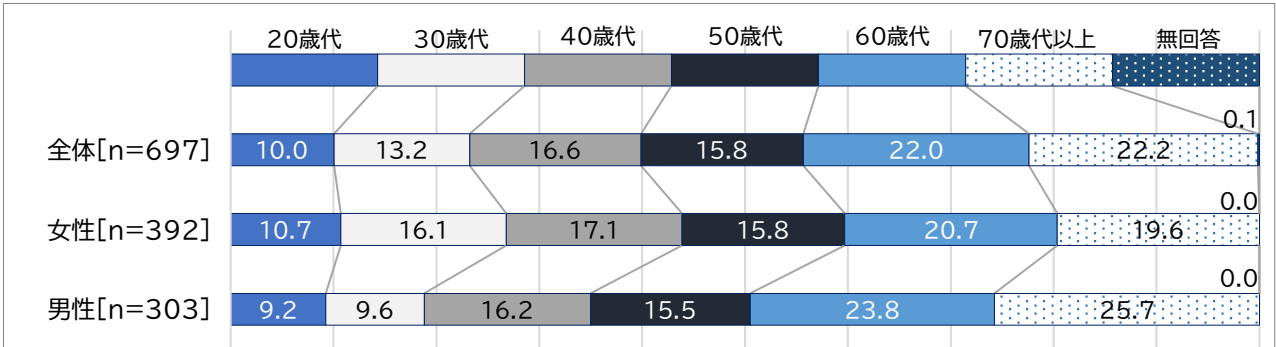
12. 男女協働参画に関する意見・要望等

■回答者の属性

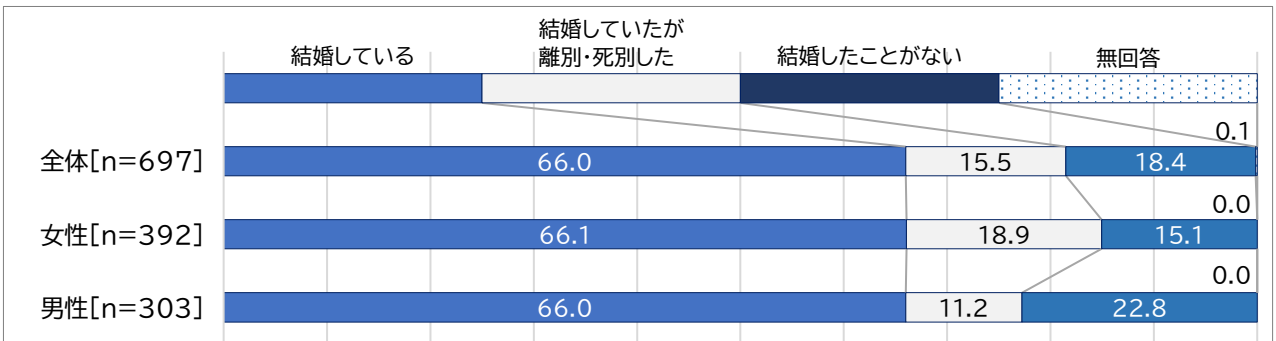
① 性別



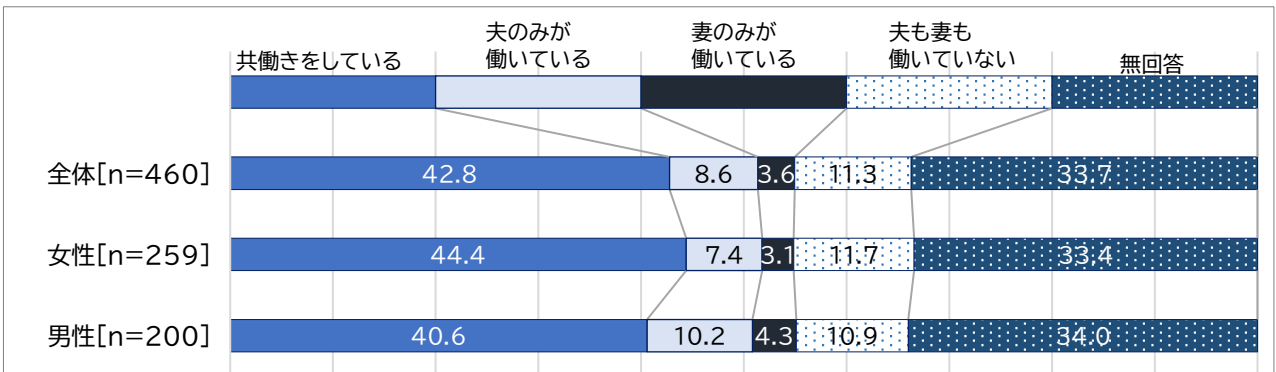
② 年齢



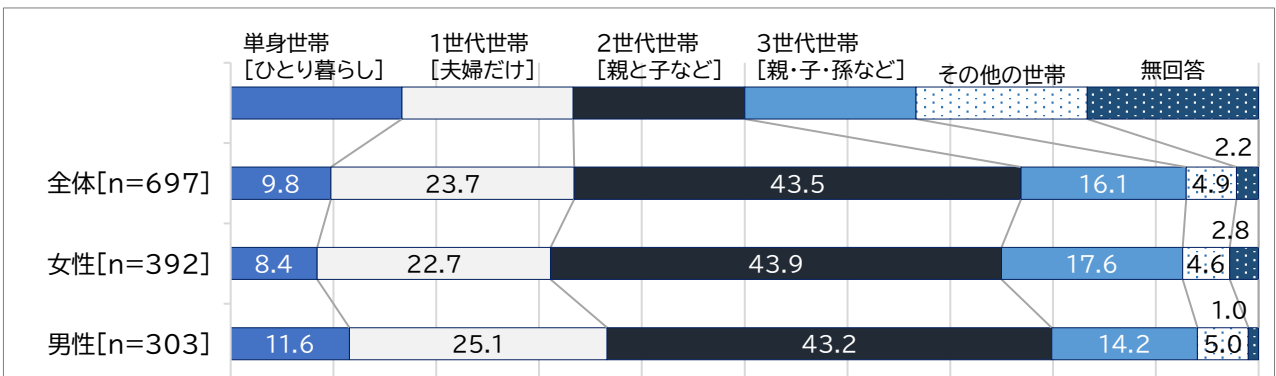
③ 婚姻の有無



④ 共働きの状況【婚姻の有無で「結婚している」と回答した人】



⑤ 世帯構成



1. 男女平等について

(1) 男女平等の実現状況

問1.

あなたは、男女平等が現在どの程度実現していると思いますか。
(○は質問項目ごとに1つ)

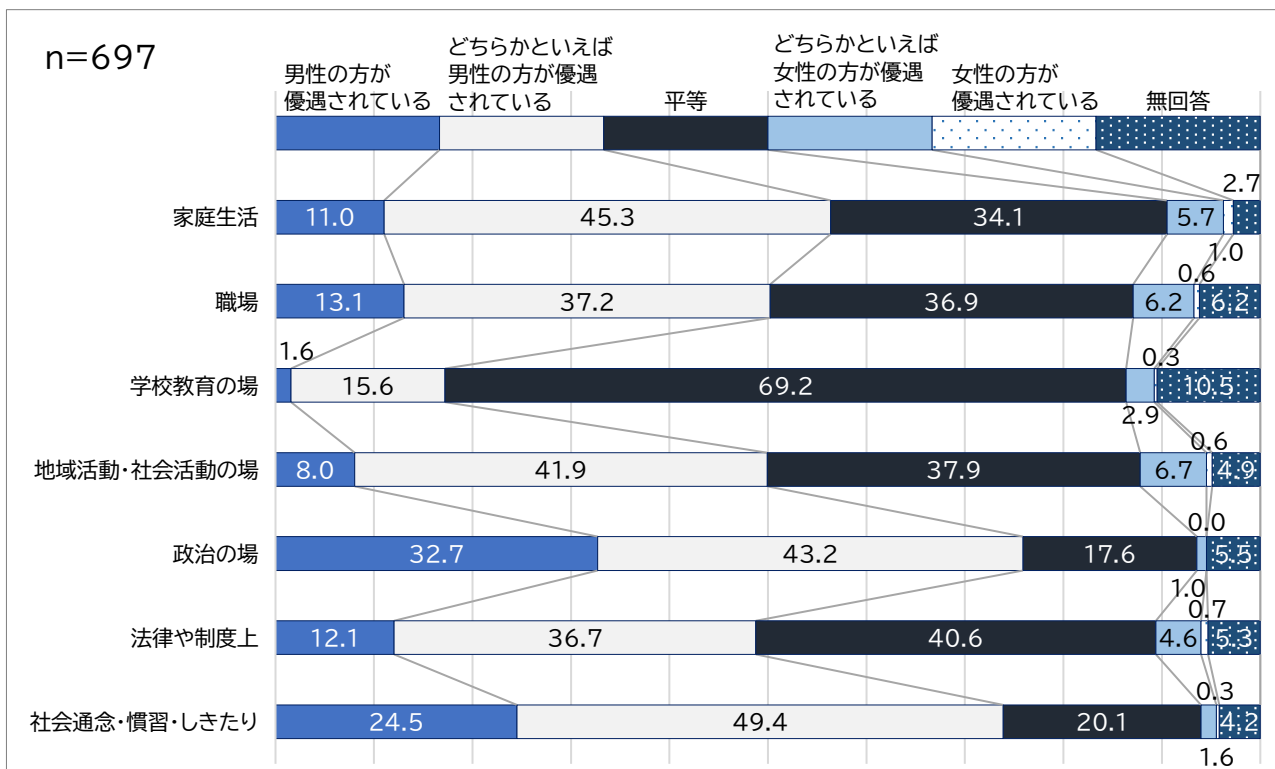
◆平等と感じる割合が最も高いのは「学校教育の場」で69.2%。

「平等」の割合が高かったのは「学校教育の場」が69.2%と7割近く、次いで「法律や制度の上」が40.6%となっている。

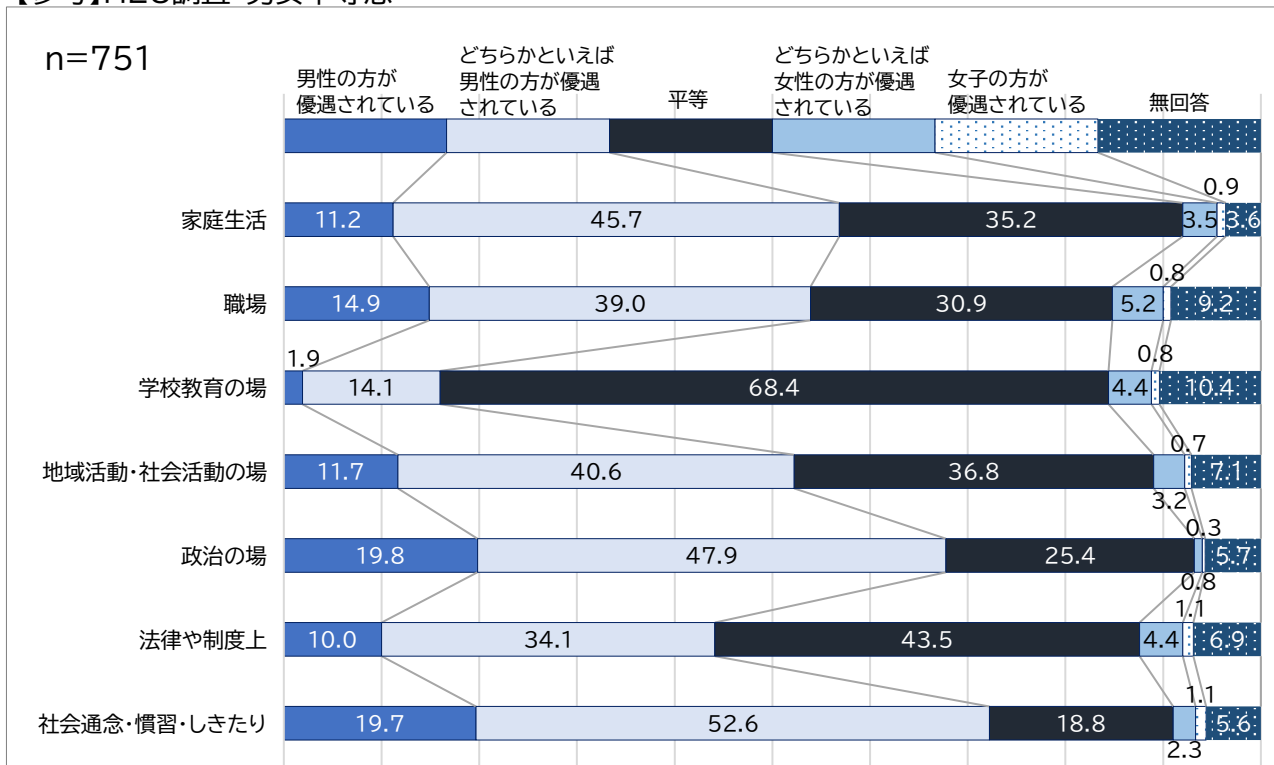
「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」の割合が高いのは、「政治の場」が75.9%(H28:67.7%)、「社会通念・慣習・しきたり」73.9%(H28:72.3%)となっている。

前回のH28調査から特に平等と感じる割合が高くなったのは「職場」で、6ポイント高くなっている。(R3:36.9%、H28:30.9%)割合が特に低くなったのは「政治の場」で、8ポイント低くなっている。(R3:17.6%、H28:25.4%)

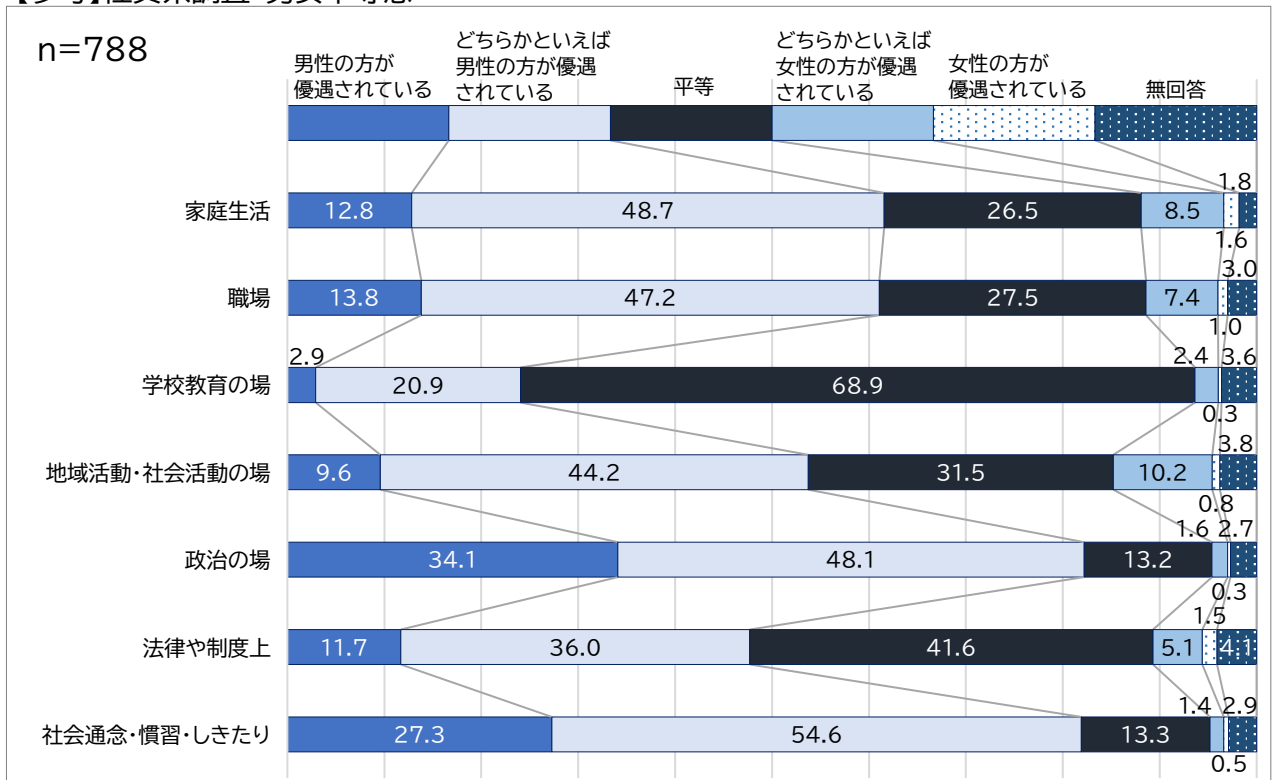
佐賀県調査(R1)と比較すると、「法律や制度上」以外の項目で、「平等」の割合が高くなっている。



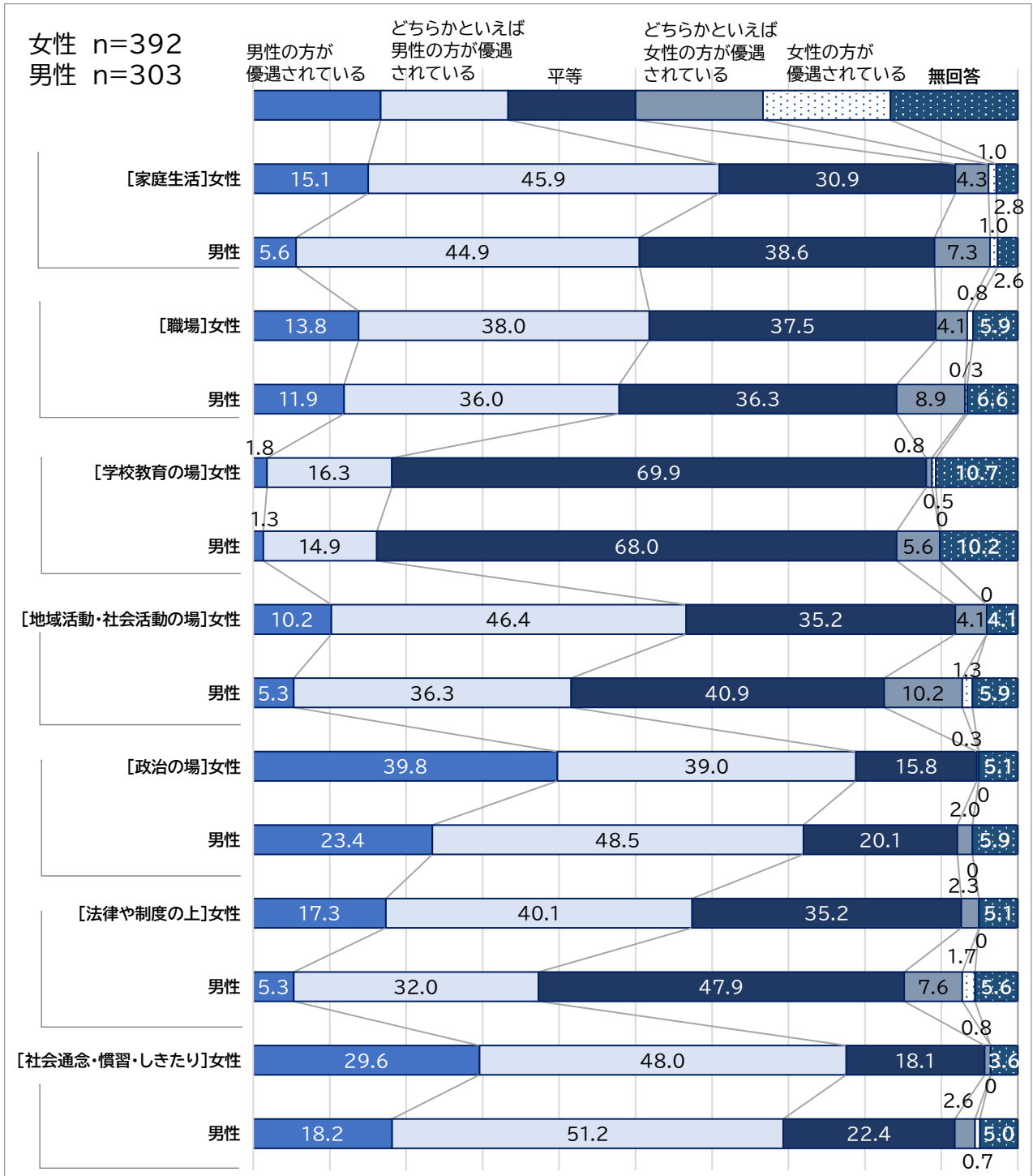
【参考】H28調査・男女平等感



【参考】佐賀県調査・男女平等感



男女平等感(R3調査 性別)



2. 家庭について

(1) 性別役割分担意識について

問2. あなたは、一般的に「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思いますか。

◆「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」といった性別役割分担意識について、反対「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の割合は74%。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」といった性別役割分担意識について、賛成「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、25.1%(H28:19.2%)、反対「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の割合が、74%(H28:78.6)となっている。

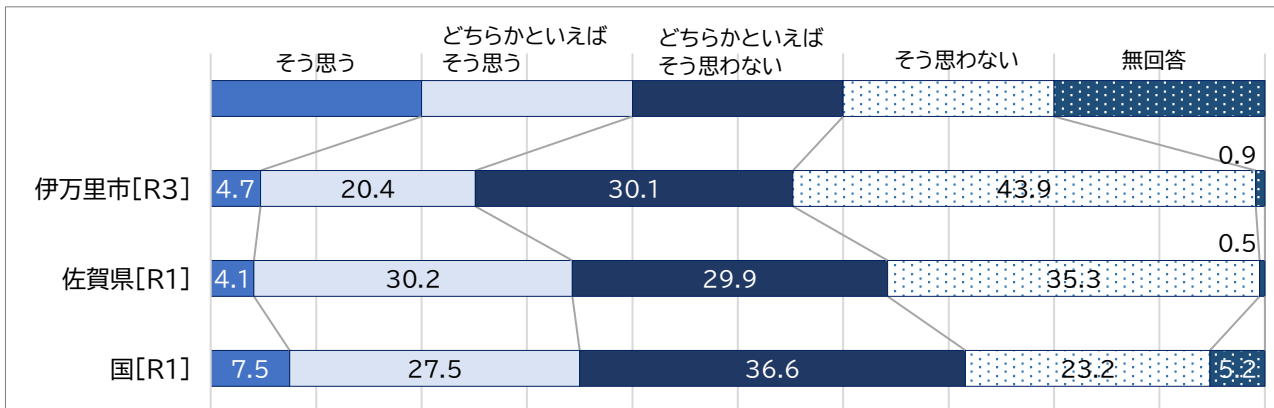
佐賀県調査(R1)34.3%、全国調査(R1)35.0%と比較して、賛成の割合は低くはなっているが、前回のH28調査より5.9ポイント増加している。

性別で見ると、賛成は、男性31.0%(H28:21.7%)、女性20.4%(H28:17.2%)となっており、男性の方が10.6ポイント高くなっている。

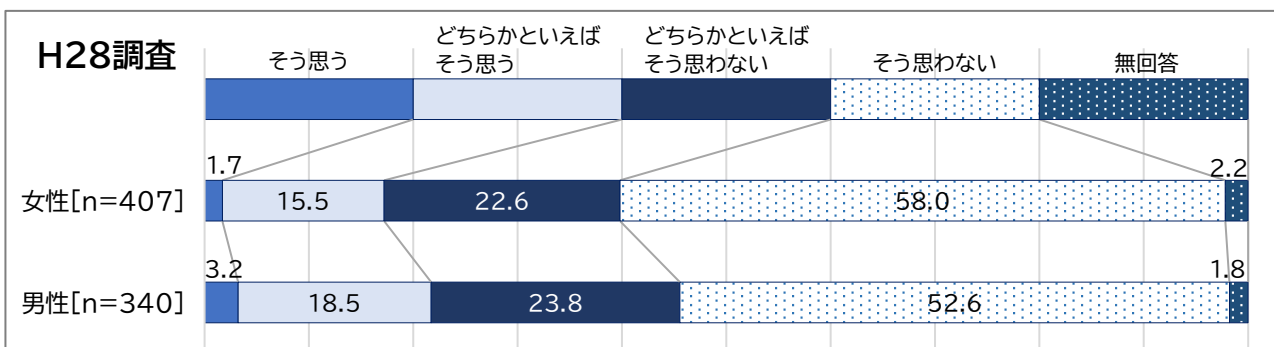
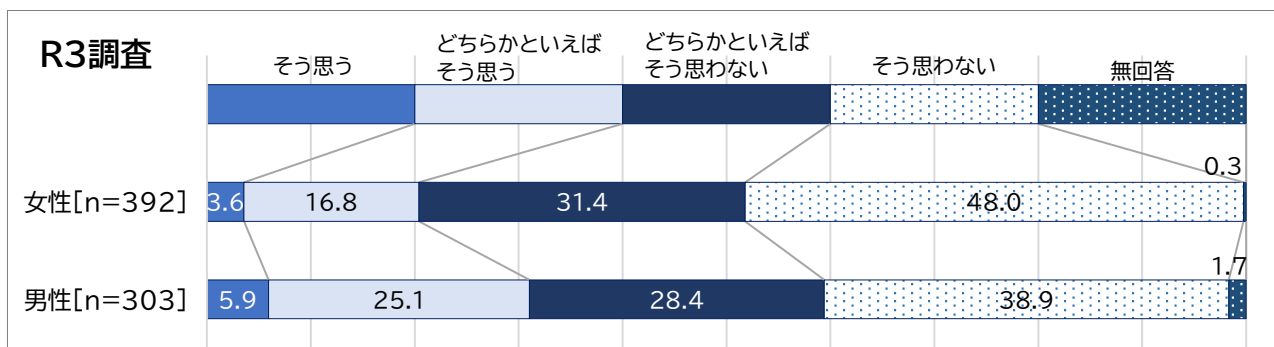
年代別では、20歳代が反対する割合が高く、男性92.9%(H28:85%)、女性90.5%(H28:78.4%)となっている。また、女性の20歳代～60歳代では反対する人の割合が、8割を超えている。

賛成する人の割合が最も高いのは、70歳代以上の男性で、51.2%(H28:36.4%)となっている。

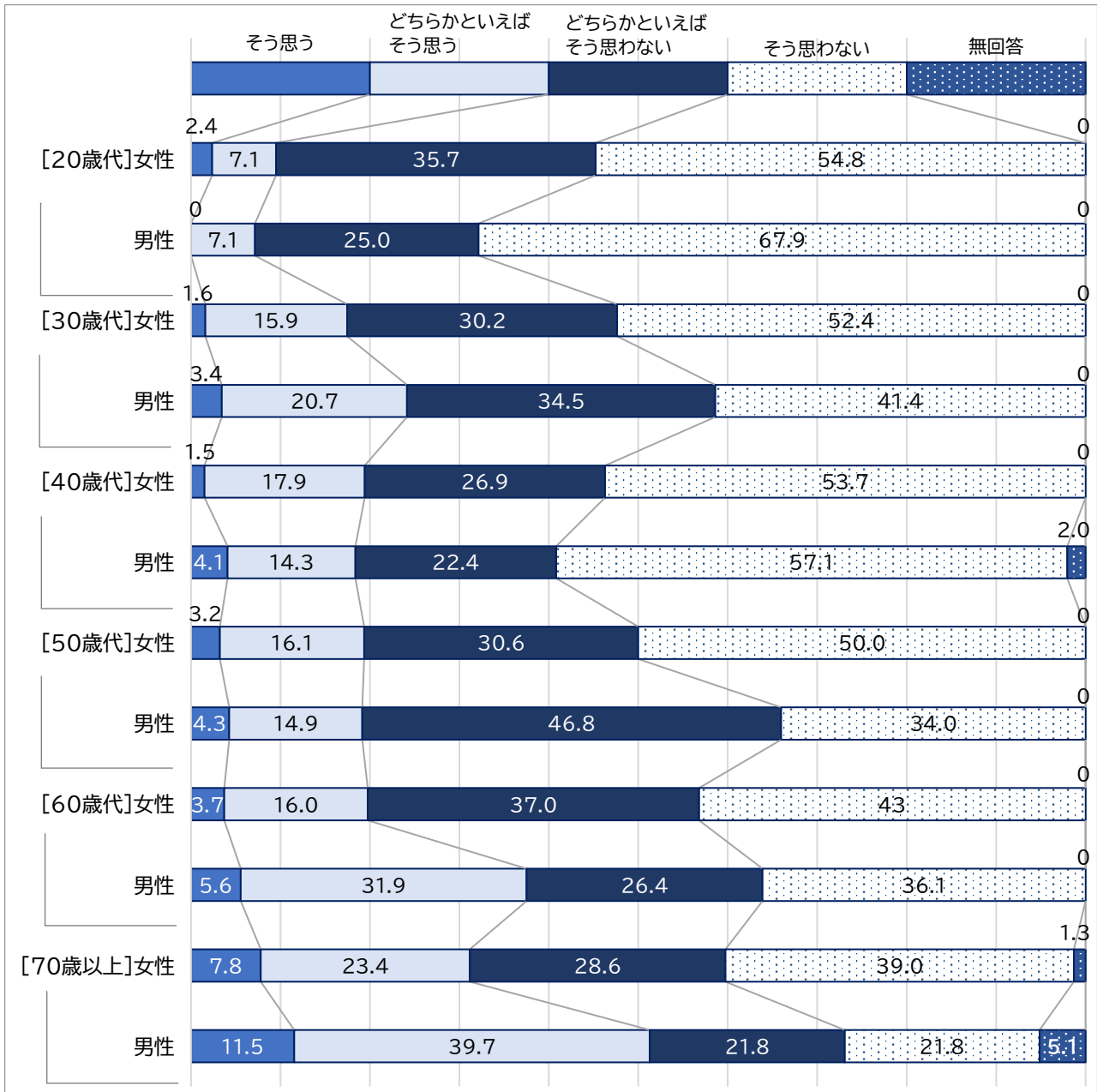
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について【伊万里市/県/国】



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について



【図表】「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について(伊万里市/年代・性別比較)



(2)家事時間・育児時間・介護時間

問3.

あなたの平日における1日の家事・育児・介護時間について、おおよその時間数を記入してください。

- ◆「家事時間」「育児時間」は女性が長い
- ◆男性の「家事時間」「育児時間」が、前回H28調査より長くなっている

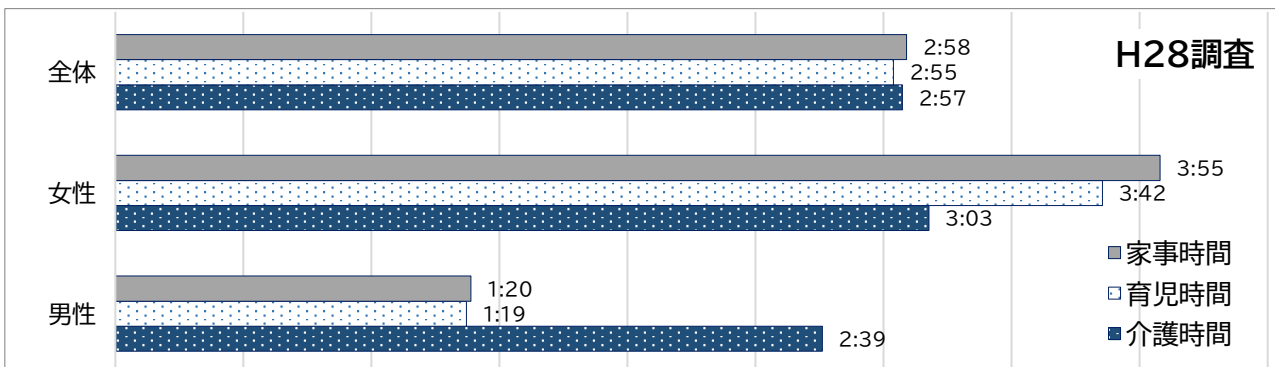
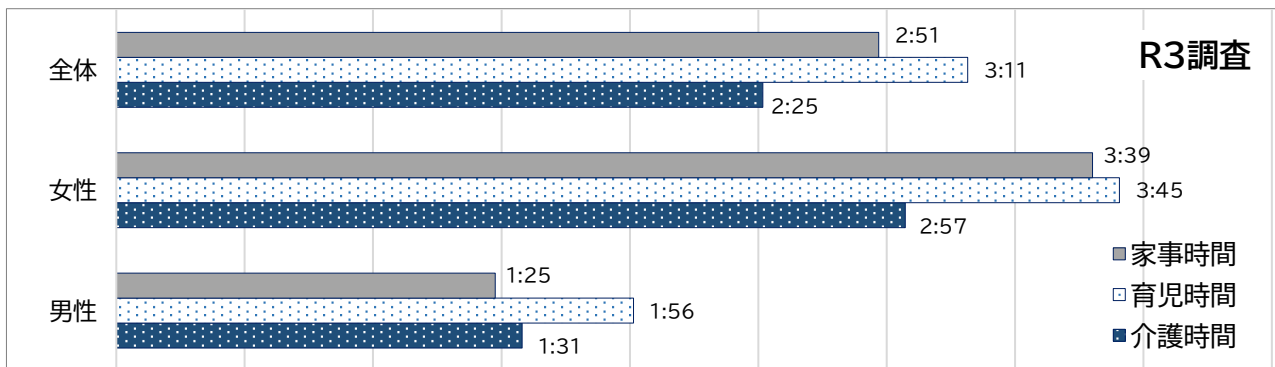
全体では、1日の「家事時間」が、2時間51分(H28:2時間58分)、「育児時間」が、3時間11分(H28:2時間55分)、「介護時間」が、2時間25分(H28:2時間57分)となっている。

男性の「家事時間」は、1時間25分で、H28調査より5分長くなり、「育児時間」は、1時間56分で、H28調査より37分長くなっている。

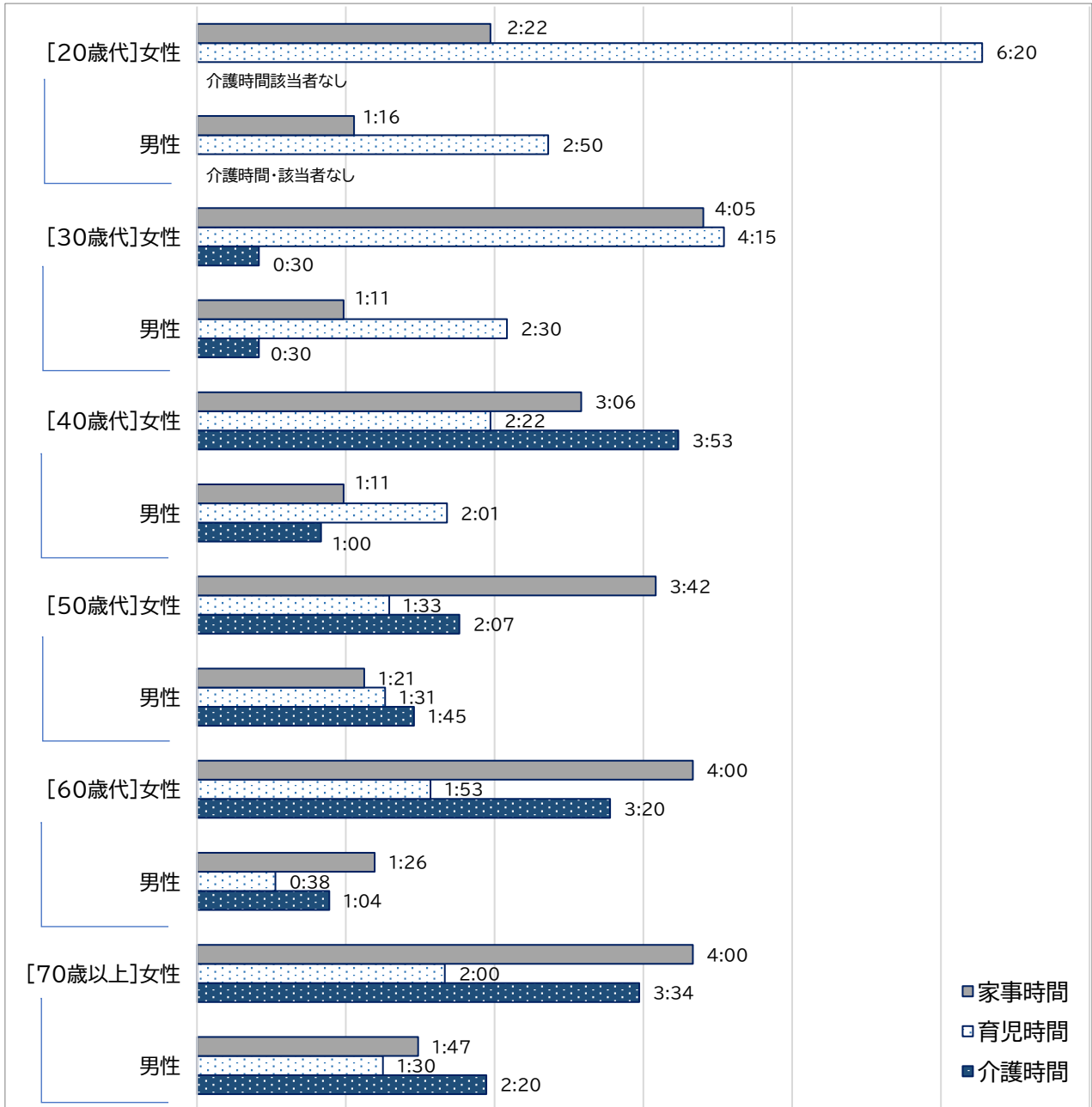
性別で見ると、「家事時間」は、女性が3時間39分で、男性より、2時間14分長く、「育児時間」は、女性が3時間45分で、男性より、1時間49分長く、「介護時間」は、女性が2時間57分で、男性より1時間26分長くなっている。

性別で差が大きいのは、20歳代の「育児時間」で、女性が、男性より3時間30分長く、40歳代の「介護時間」では、女性が、男性より2時間53分長くなっている。

家事時間・育児時間・介護時間



年代・性別比較



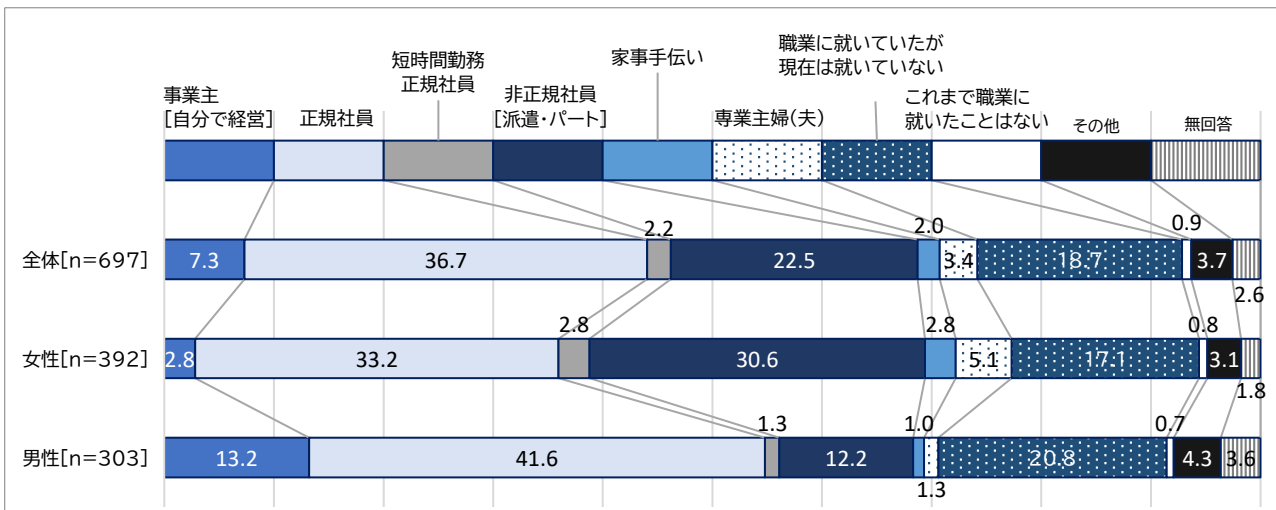
3. 職業について

(1)現在の職業状況

問4. あなたは、今どのような形で働いていますか。

◆正規社員は、男性が高く、非正規社員の割合は女性が高くなっている。

全体の4割弱が正社員、2割強が非正規社員となっている。
 正規社員は、男性が41.6%で、女性より、8.4ポイント高くなっている。非正規社員は、女性が30.6%で、男性より、18.4ポイント高くなっている。



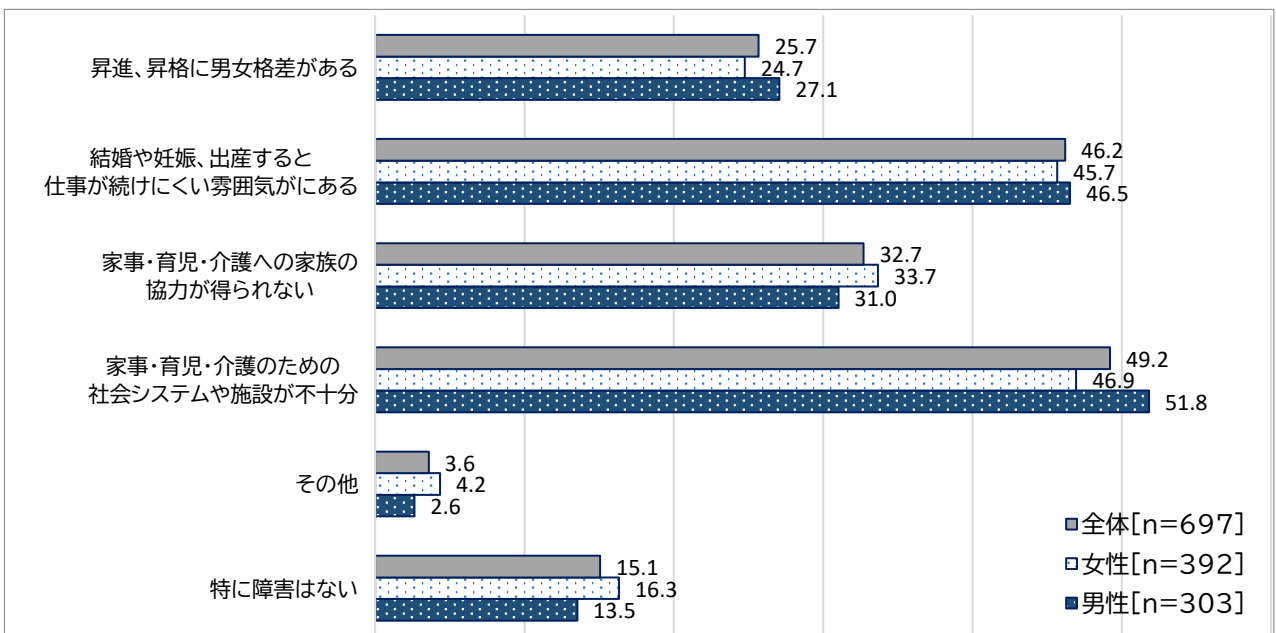
(2)女性が仕事を続ける上での障害

問5. あなたは、女性が仕事を続けていく上で、障害になっていることは何だと思います (〇は3つまで)

◆「家事・育児・介護のための社会システムや、施設等が不十分である」「結婚や妊娠・出産すると、仕事や続けにくい雰囲気が職場にある」が多い

全体では、「家事・育児・介護のための社会システムや施設等が不十分である」が49.2%(H28:53.3%)で、最も高く、次に「結婚や妊娠・出産すると、仕事が続けにくい雰囲気が職場にある」が46.2%(H28:53.3%)となっている。また、「特に障害はない」が、15.1%(9.5%)となっている。

性別で見ると、「家事・育児・介護のための社会システムや施設等が不十分である」が、男性では、51.8%(H28:55.3%)で、女性より4.9ポイント高く、「家事・育児・介護への家族の協力が得られない」が、女性では33.7%(H28:33.7%)で、男性より2.7ポイント高くなっている。

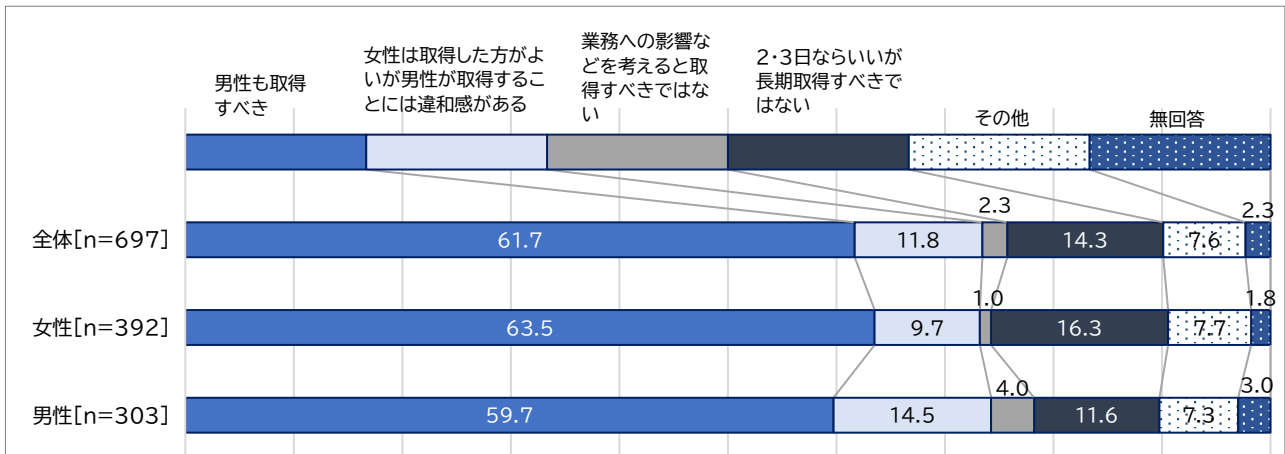


(3)男性の育児休業・介護休業

問6. あなたは、男性が育児休業を取得することについて、どう思いますか。(〇は1つ)

◆6割以上が男性が育児休業を取得することに賛成

「男性も取得すべき」が、女性では63.5%で、男性より3.8ポイント高く、「女性は取得した方がよいが、男性が取得することには違和感がある」が、男性では14.5%で、女性より4.8ポイント高くなっている。



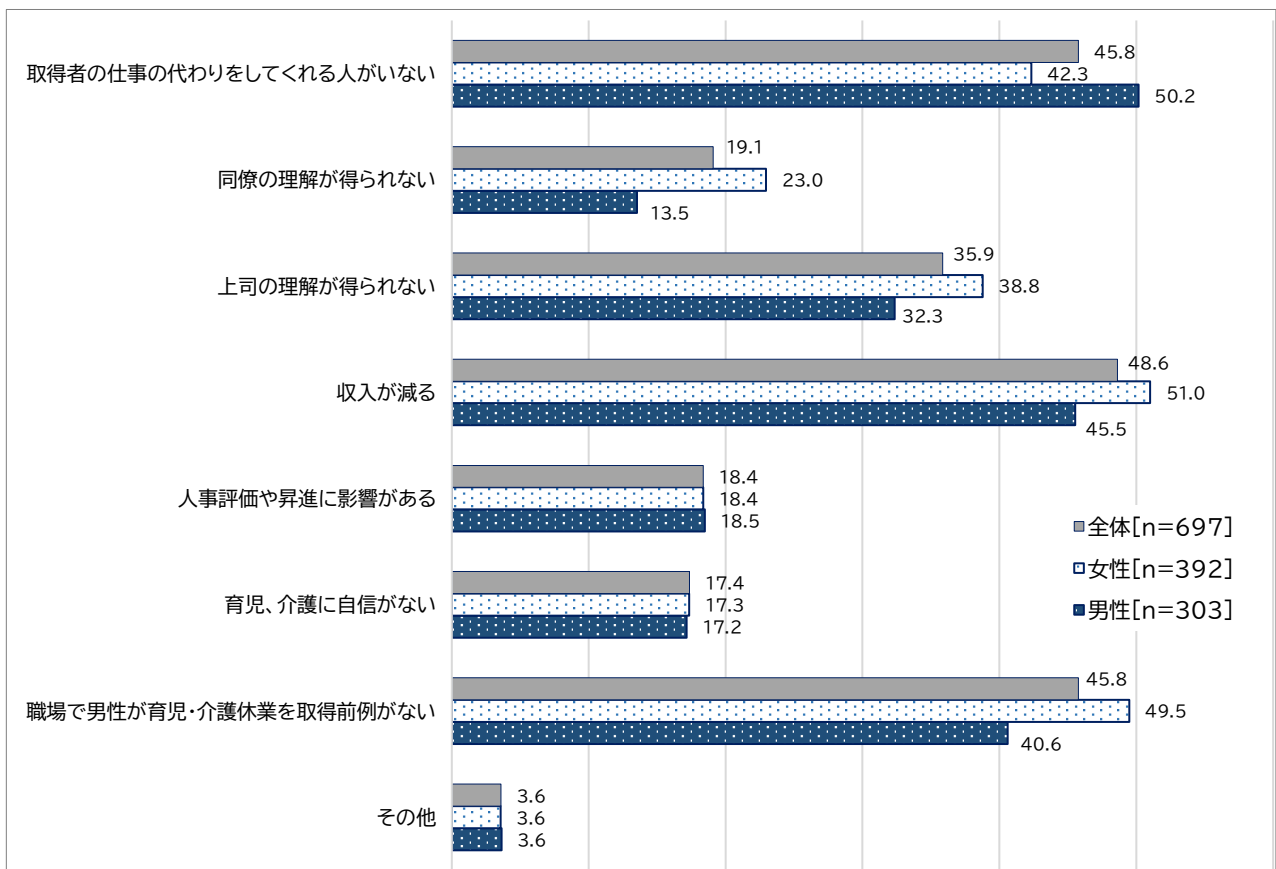
問7.

男性の育児休業や介護休業の取得が進まない現状にあります。あなたはどのような理由からだと思いますか。(〇は3つまで)

◆「収入が減る」「取得者の仕事の代わりにしてくれる人がいない」「職場で男性が育児休業、介護休業を取得した前例がない」が高くなっている

「収入が減る」が、48.6%で、最も高く、次に、「取得者の仕事の代わりにしてくれる人がいない」「職場で男性が育児休業、介護休業を取得した前例がない」が、45.8%となっている。

性別で見ると、男性では、「取得者の仕事の代わりにしてくれる人がいない」が、50.2%で最も高く、次に「収入が減る」が、45.5%となっている。女性では、「収入が減る」が、51%で最も高く、次に「職場で男性が育児休業、介護休業を取得した前例がない」49.5%となっている。



4. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について

(1)ワーク・ライフ・バランス

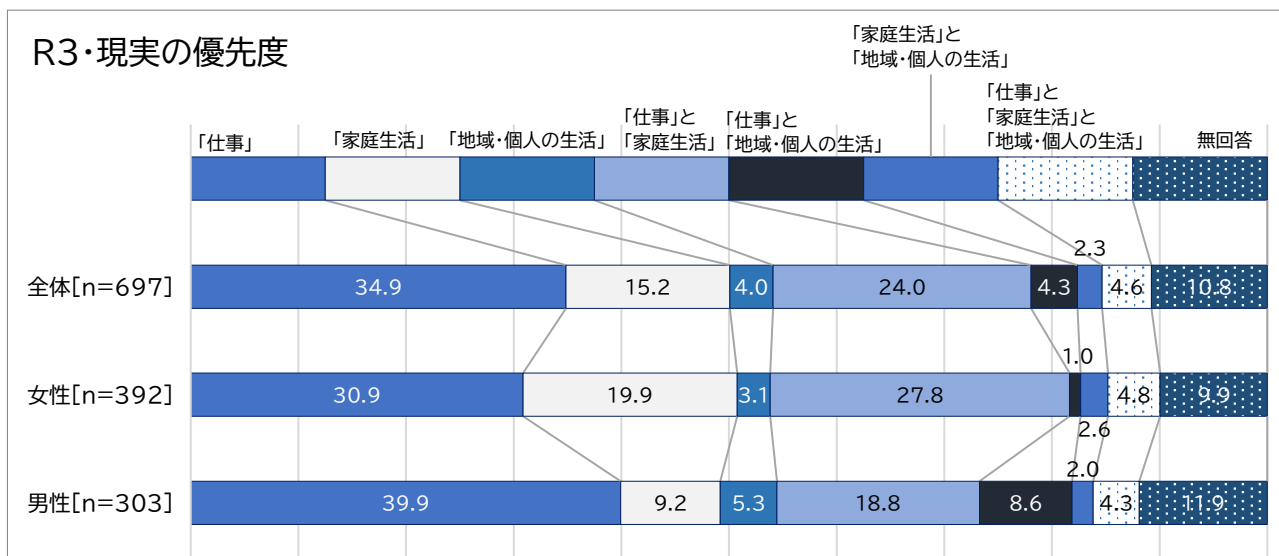
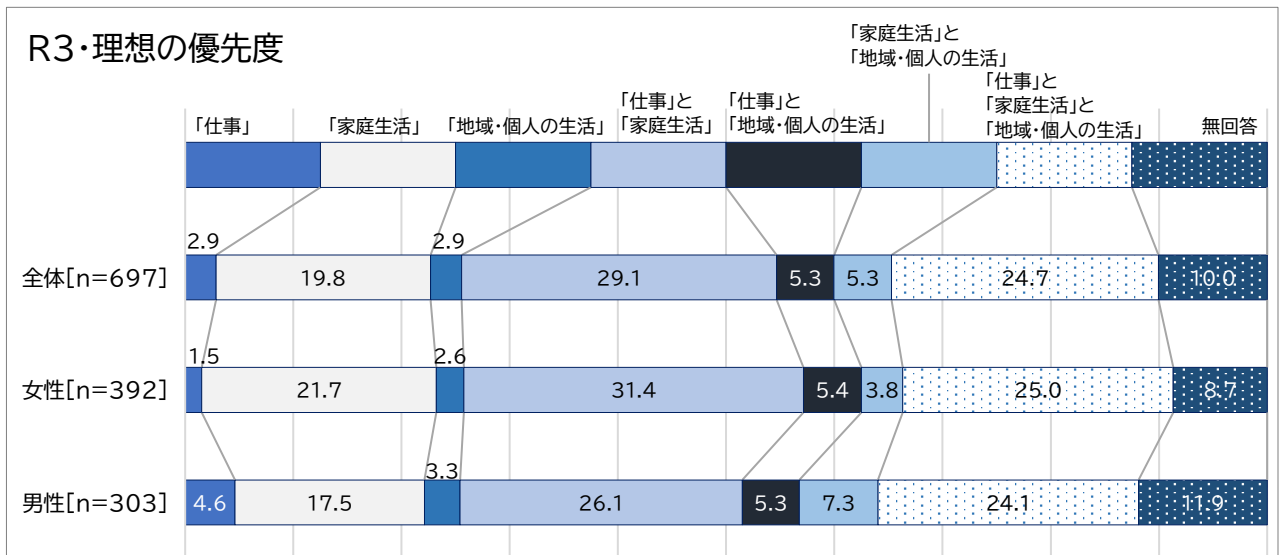
問8. あなたの生活の中で、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のうち“理想の優先度”と“現実の優先度”はどれですか。(〇は1つ)

◆理想の優先度は、『「仕事」と「家庭生活」』、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」』、『家庭生活』が高いが、現実には、『仕事』の優先度が最も高い生活の中で仕事・家庭・地域等、複数の活動を優先する市民の割合は、35.2%となっており、H28調査37.5%より低くなっている。

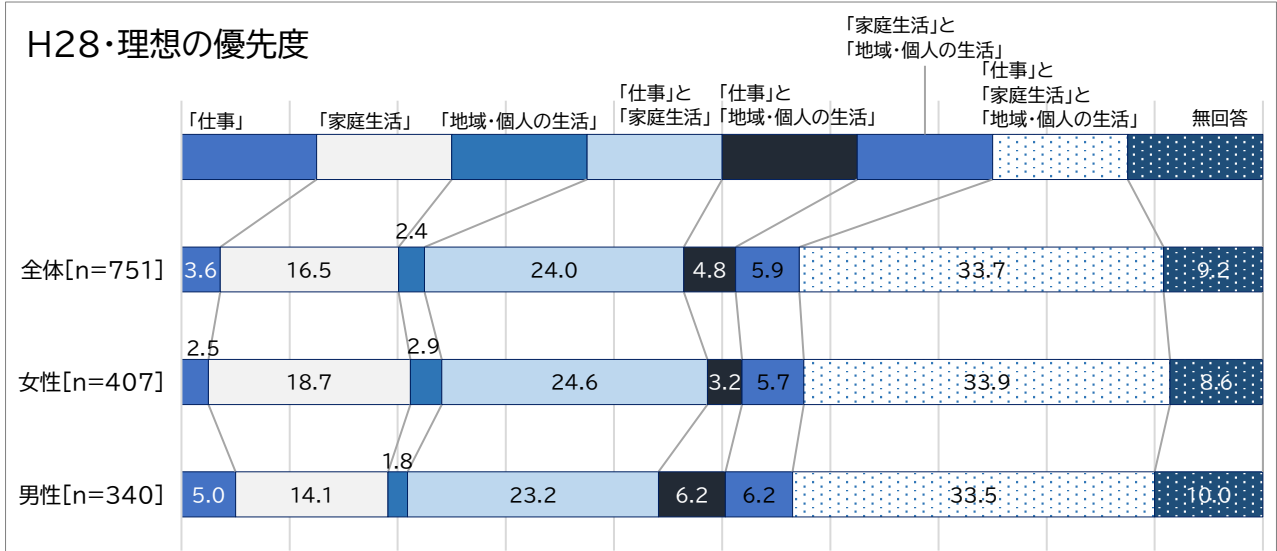
理想の優先度は、全体では『「仕事」と「家庭生活」』が、29.1%(H28:24%)で、最も高く、年代別でも高くなっているが、現実では24%(H28:16.8%)となっている。

現実の優先度は、『仕事』が、34.9%で、最も高く、年代別でも70歳以上を除く、全ての年代で『仕事』の優先度が高くなっているが、理想の優先度は、2.9%であり、理想と現実の優先度の差が大きい。

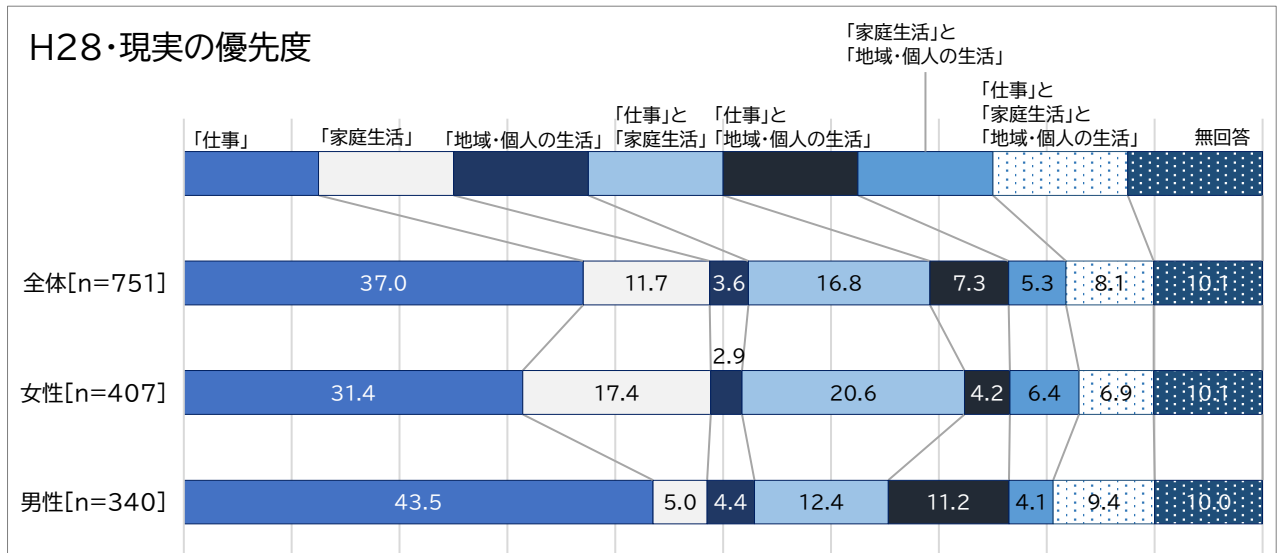
性別で見ると、現実の優先度は男性では、『仕事』が、39.9%で、最も高く、女性より9ポイント高い。また、女性では、『「仕事」と「家庭生活」』が、27.8%で、男性より9ポイント高くなっている。

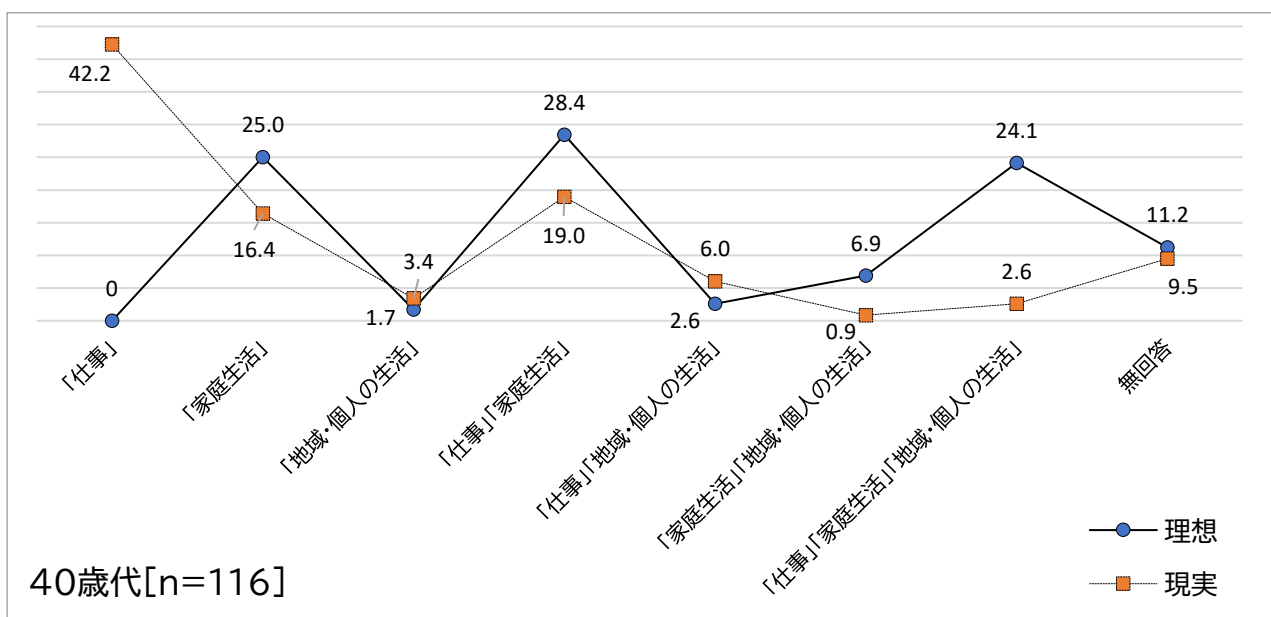
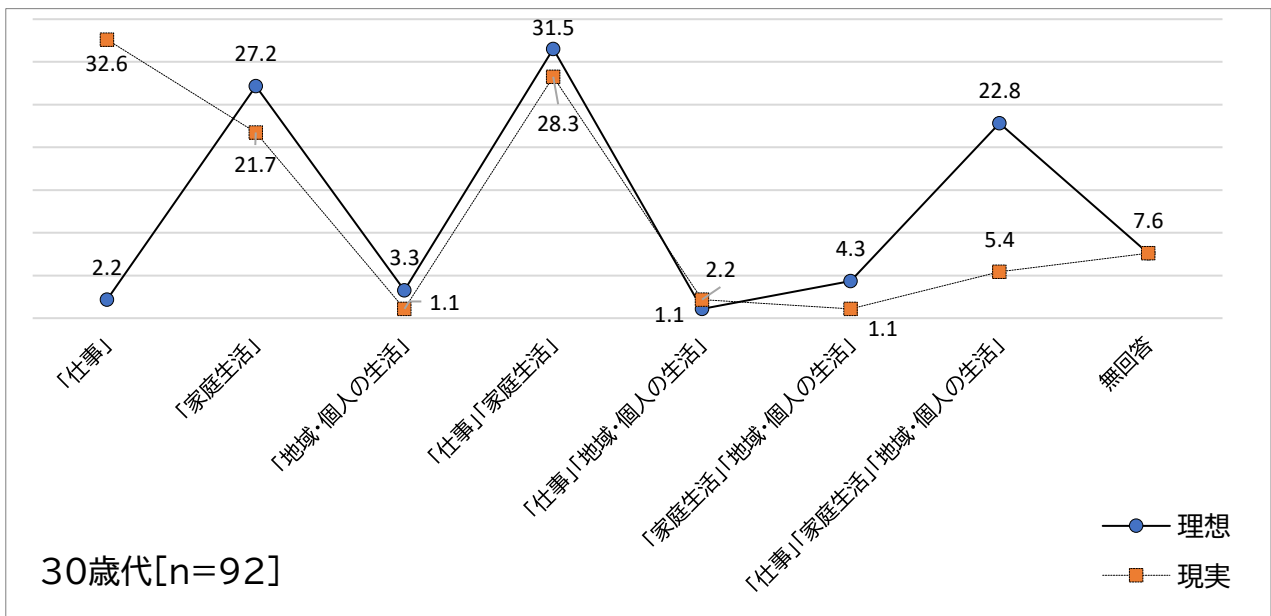
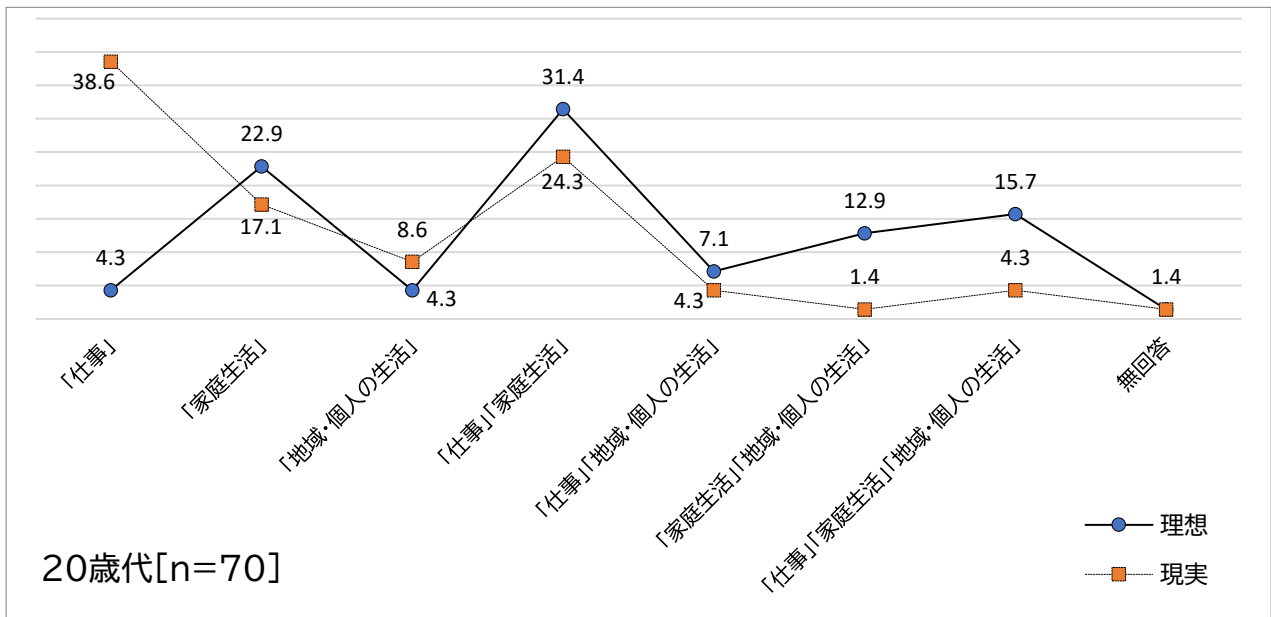


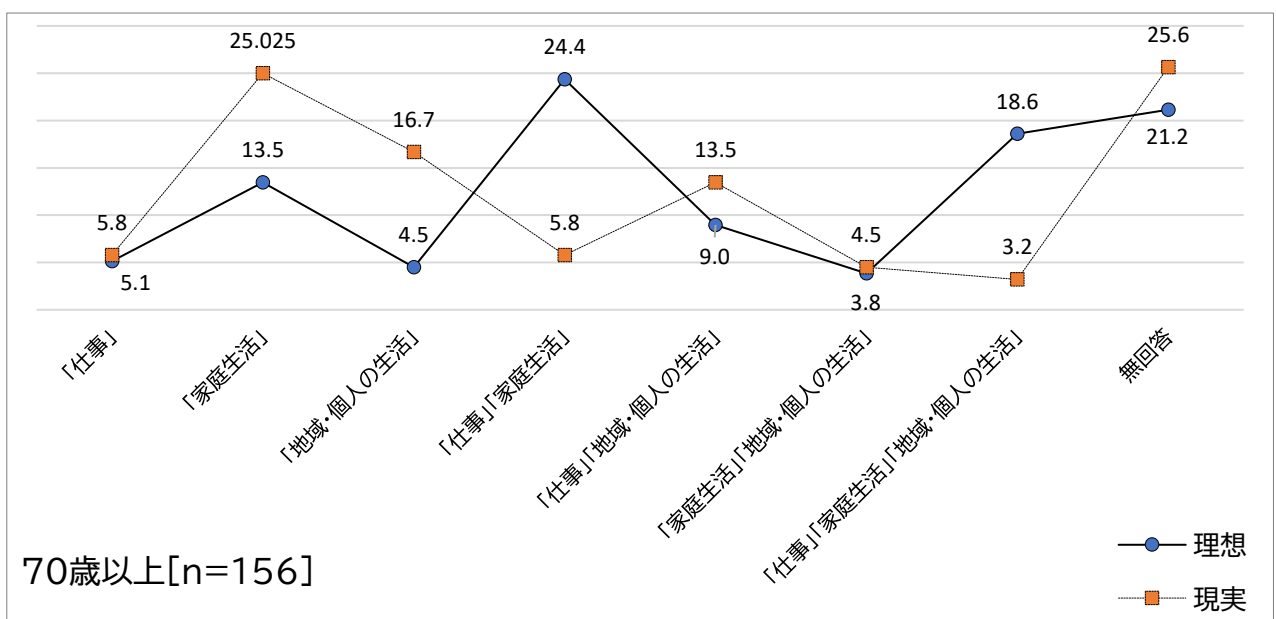
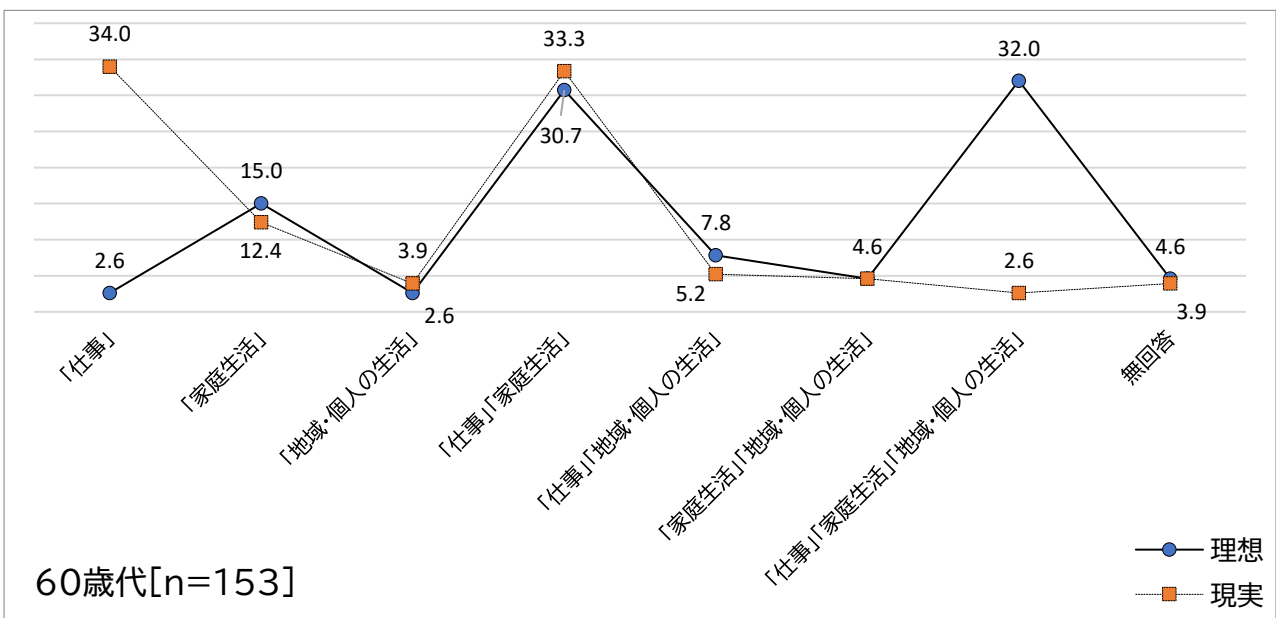
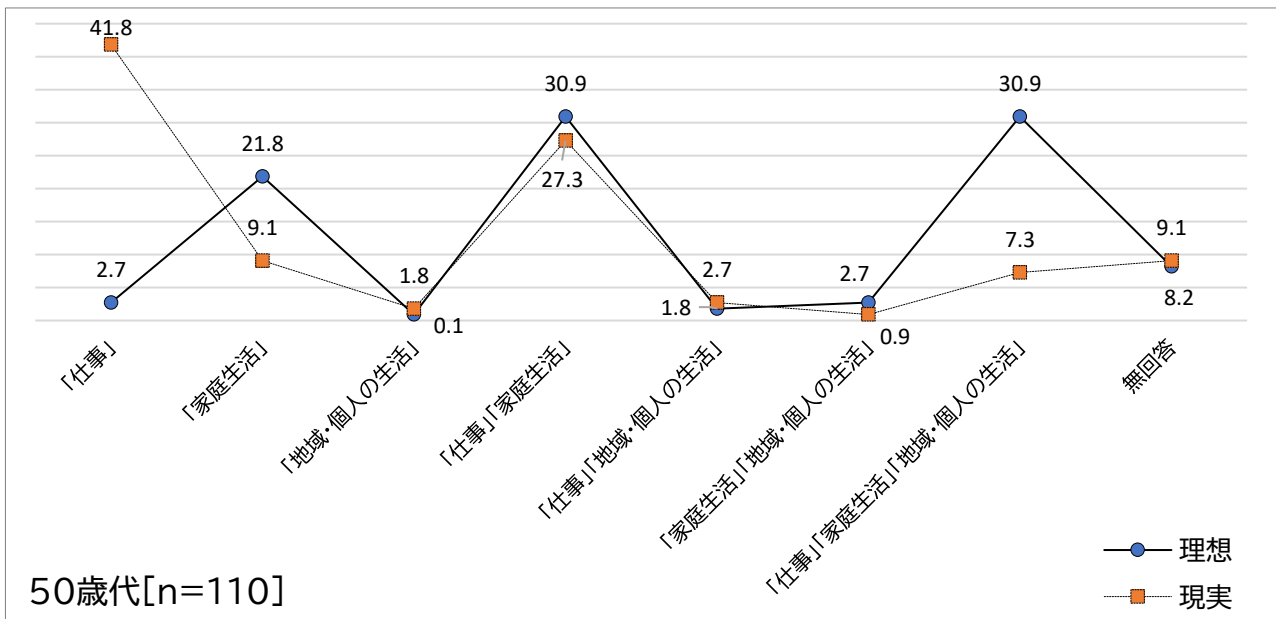
H28・理想の優先度



H28・現実の優先度





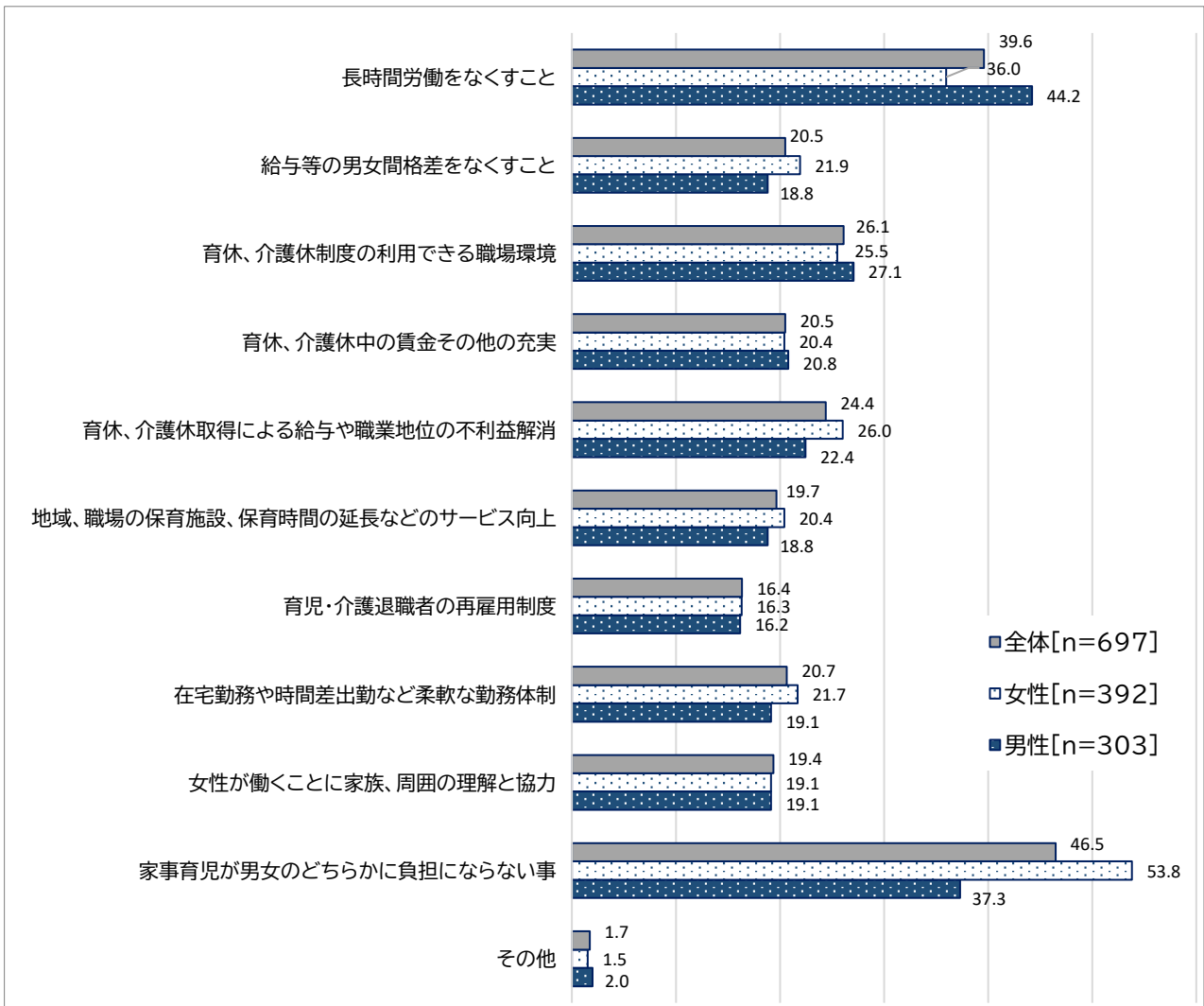


問9.

ワークライフバランスを実現していくため、どのようなことが必要だと思いますか。
(○は3つまで)

◆「家事や育児を男女が協力して行い、どちらかに負担がかかりすぎないこと」が最も高い

全体では、「家事や育児を男女が協力して行い、どちらかに負担がかかりすぎないこと」が、46.5% (H28:35.6%)で、最も高く、次に「長時間労働をなくすこと」が、39.6%(H28:32.2%)となっている。性別で見ると、女性は、「家事、育児を男女が協力して行い、どちらかに負担がかかりすぎないこと」が、最も高く、男性は、「長時間労働をなくすこと」が、最も高くなっている。



5. 子育てと教育について

(1)子どものしつけ

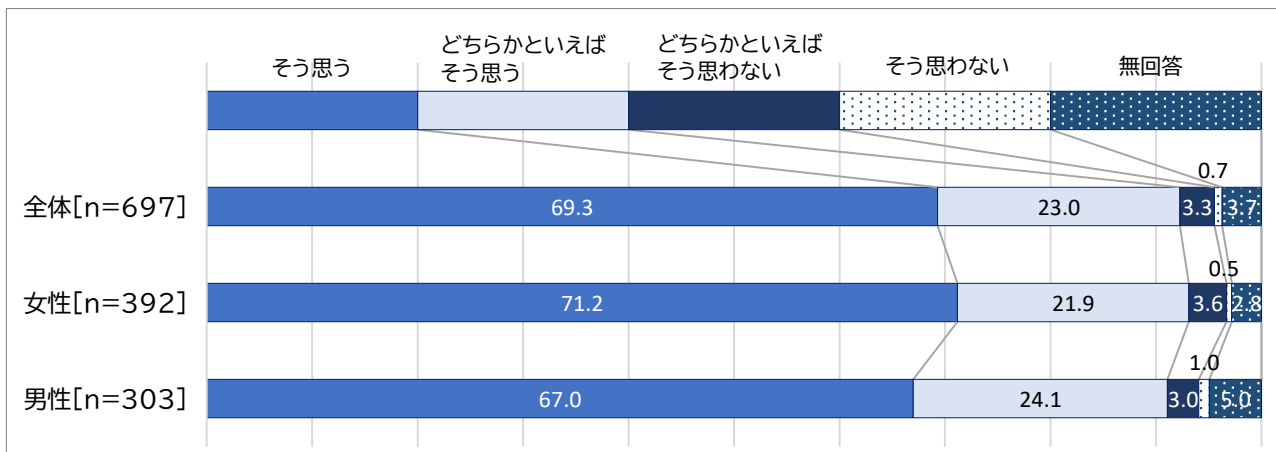
問10.

あなたのご意見に近いものはどれですか。

1. 女の子も男の子も同じように、経済的に自立できるような教育が必要

◆「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は9割強

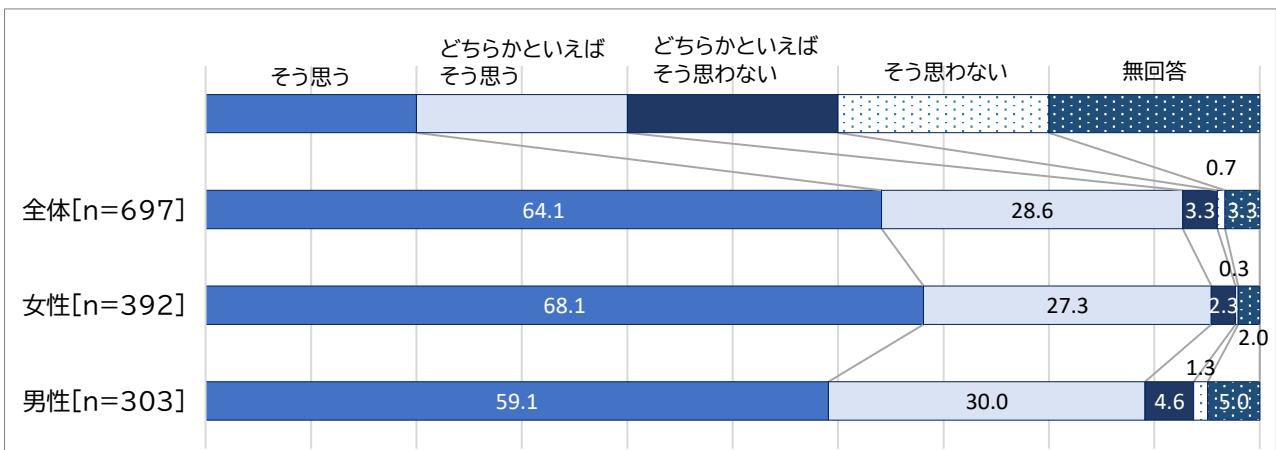
「女の子も男の子と同じように、経済的に自立できるような教育が必要」という考え方について、全体で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が、92.3%(H28:91.6%)で、性別による回答の差もほぼない。



2. 女の子も男の子も同じように、炊事・洗濯・掃除など生活に必要な技術を身に付けた方がよい

◆「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は9割強

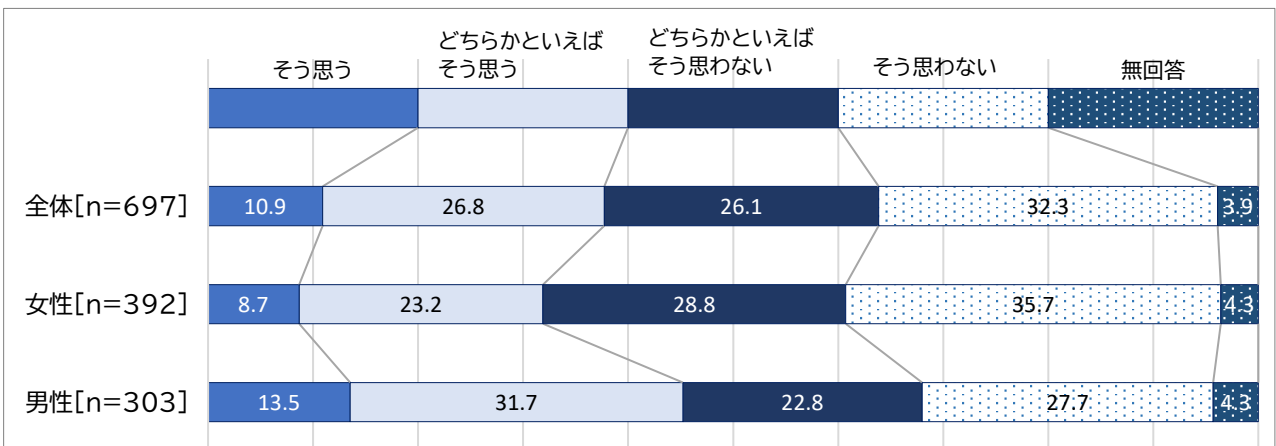
「女の子も男の子も同じように、炊事・洗濯・掃除など生活に必要な技術を身に付けた方がよい。」という考え方について、全体で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が、92.7%(H28:90.3%)で、性別による回答の差もほぼない。



3. 男女にはそれぞれの役割があるので、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる

◆「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が6割弱

「男女にはそれぞれの役割があるので、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる。」という考え方について、全体で「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が、女性では64.5%(H28:50.7%)で、男性より14ポイント高くなっている。



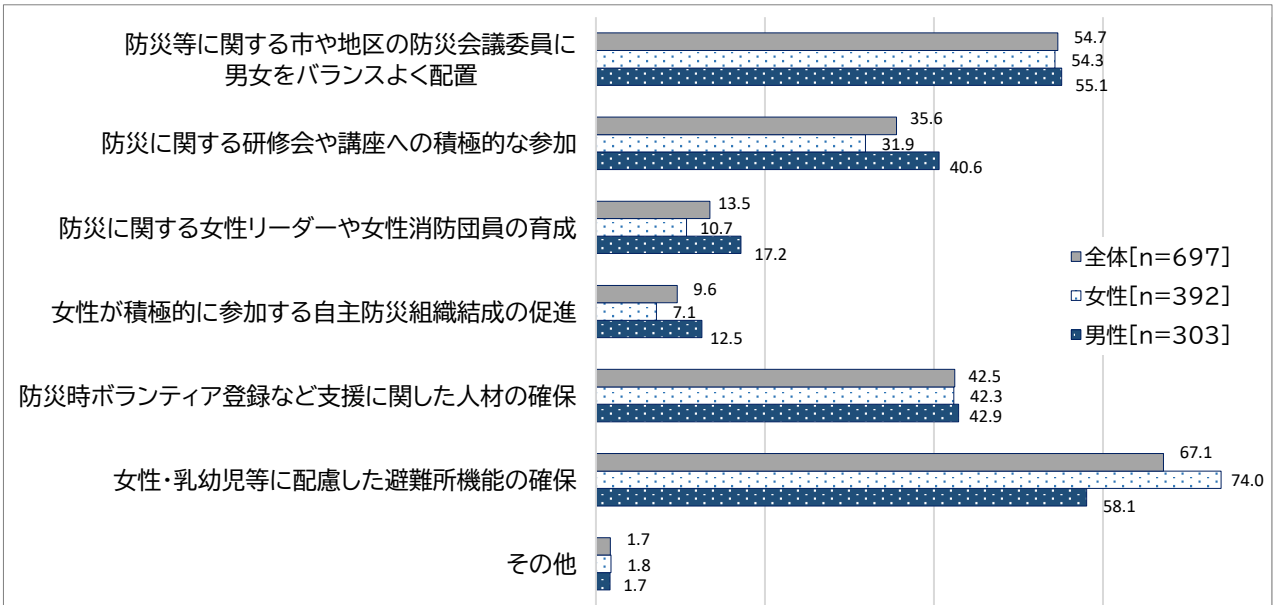
6. 防災について

(1)男女協働参画の視点からの防災

問11. 防災[災害復興を含む]には男女のニーズの違いに配慮した取り組みが必要だと考えられるようになってきました。今後の防災活動を推進していくために、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

◆「女性や乳幼児に配慮した避難所機能の確保」が7割弱

全体では、「女性や乳幼児等に配慮した避難所機能の確保」が、67.1%(H28:54.9%)で最も高く、「防災等に関する市や地区の防災会議委員に男女をバランスよく配置」が、54.7%(H28:49.5%)で、「防災時ボランティア登録など支援に関した人材の確保」が、42.5%(H28:42.2%)となっています。



7. 政策決定の場への女性の参画について

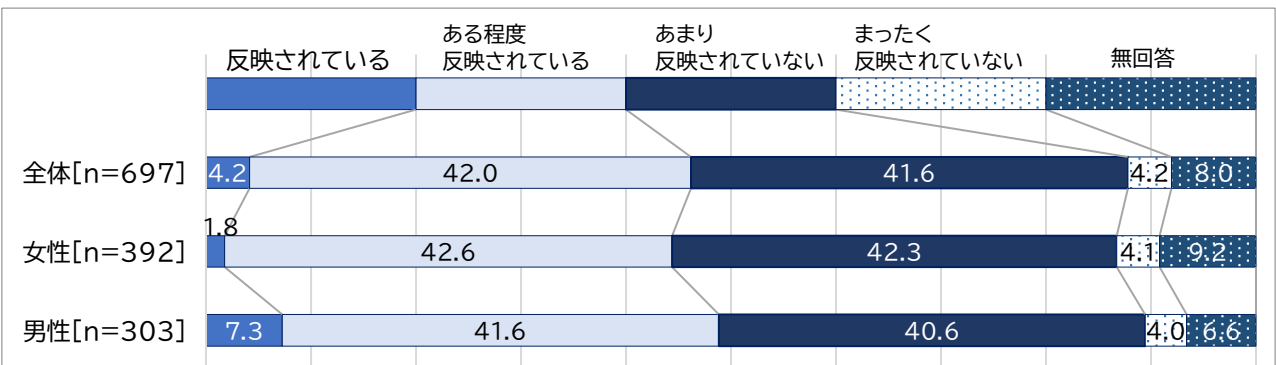
(1)女性の意見の政策への反映状況

問12. あなたは、現在の伊万里市の政策に女性の意見が反映されていると思いますか。(〇は1つ)

◆「反映されている」「ある程度、反映されている」はH28年度調査より微増

「反映されている」「ある程度、反映されている」が、46.2%で、前回のH28調査 40.7%より、5.5ポイント高くなっている。

性別で見ると、女性では、「反映されている」「ある程度、反映されている」が、44.4%(H28:33.4%)で、男性より、4.5ポイント低くなっている。

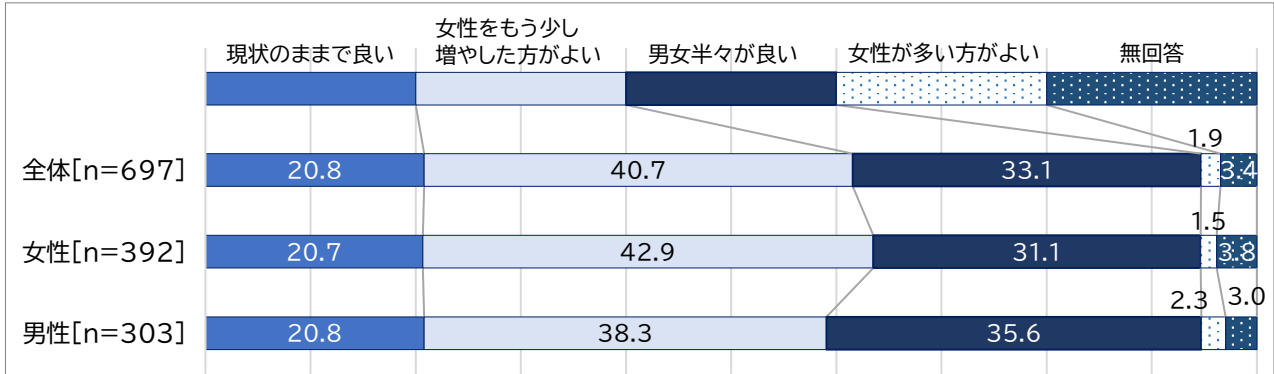


(2)女性委員が少ない現状

問13. 伊万里市の審議会等委員の女性比率は現在34.4%(目標値:R4年度までに40%)です。このことをあなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

◆「女性を増やした方がよい」「男女半々が良い」と考えている人の割合は7割強

全体では、「女性をもう少し増やした方がよい」が、40.7%(H28:48.7%)で、「男女半々が良い」が、33.1%(H28:26.8%)となっている。性別による大きな差はない。

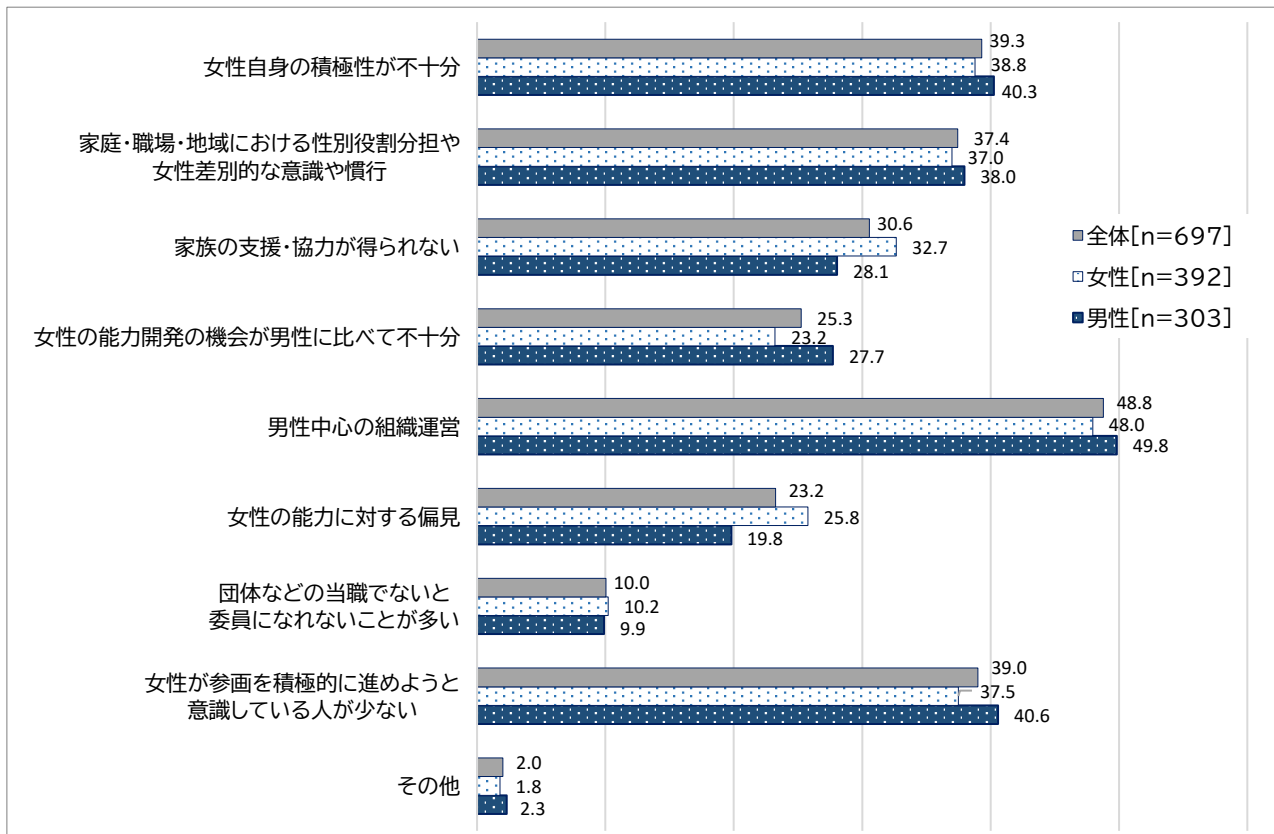


問14. あなたは、政治や行政、企業などのさまざまな分野において、女性の管理職等への任用、企画や方針決定の場への女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。(あてはまるもの全てに〇)

◆「男性中心の組織運営だから」が5割弱

全体では「男性中心の組織運営だから」が48.8%で、最も高く、次に「女性自身の積極性が不十分」が39.3%、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」の39.0%となっている。

性別による大きな差はないが、「女性の能力に対する偏見」が、女性では、25.8%で、男性より6ポイント高くなっている。



●企画や方針決定の場に女性の参画が少ない「その他」の具体的な理由

女性は仕事のほか、家事、育児の負担があり、社会進出は難しいと思う。

性別での判断ではなく、個人の能力の問題。

各種組織の中に最低の女性比率を設ける。

8. 男女間での暴力について

(1)DVドメスティックバイオレンスを受けた経験[被害]

問15-1. 今までに次のような暴力を受けたことがありますか。

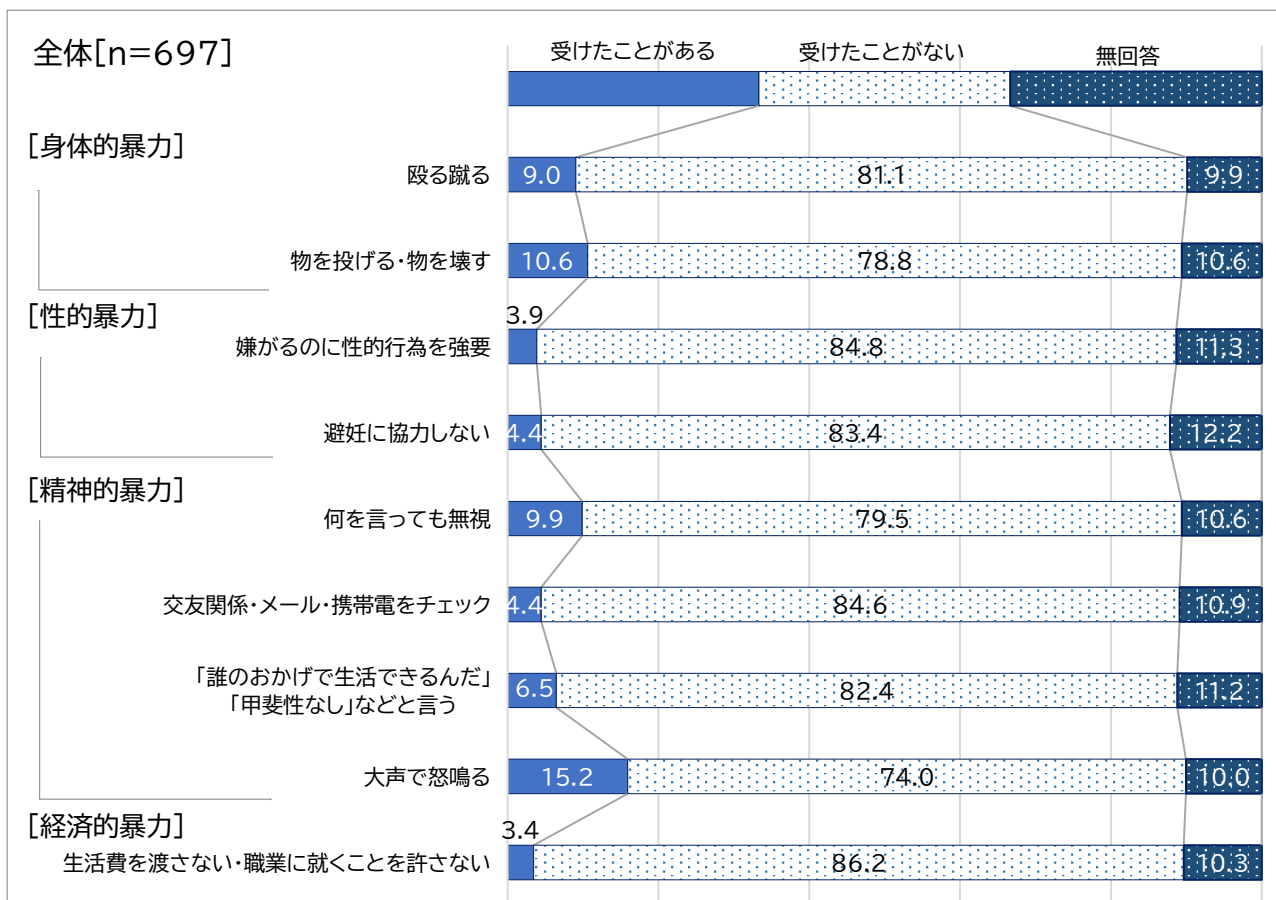
◆身体的暴力を受けたことがある女性は26.3%

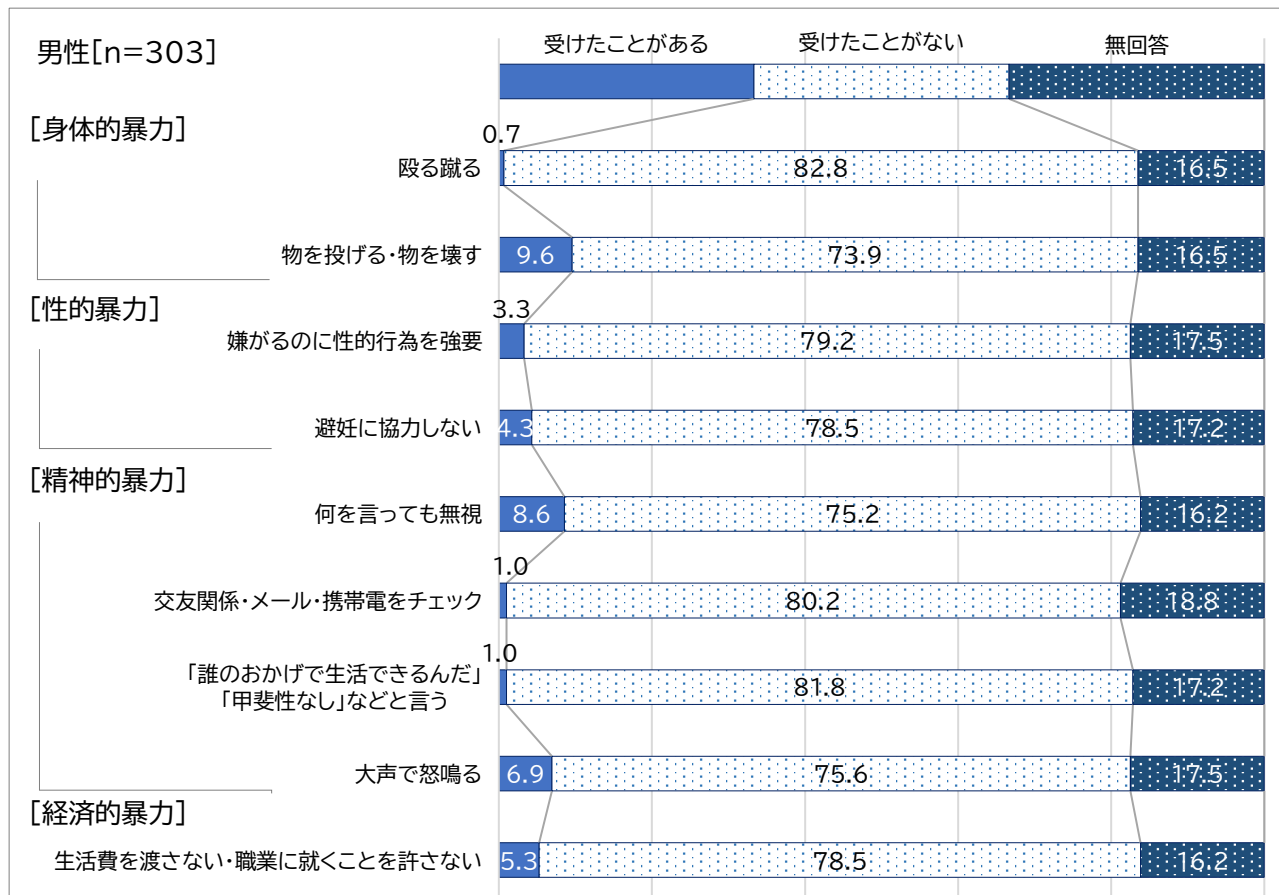
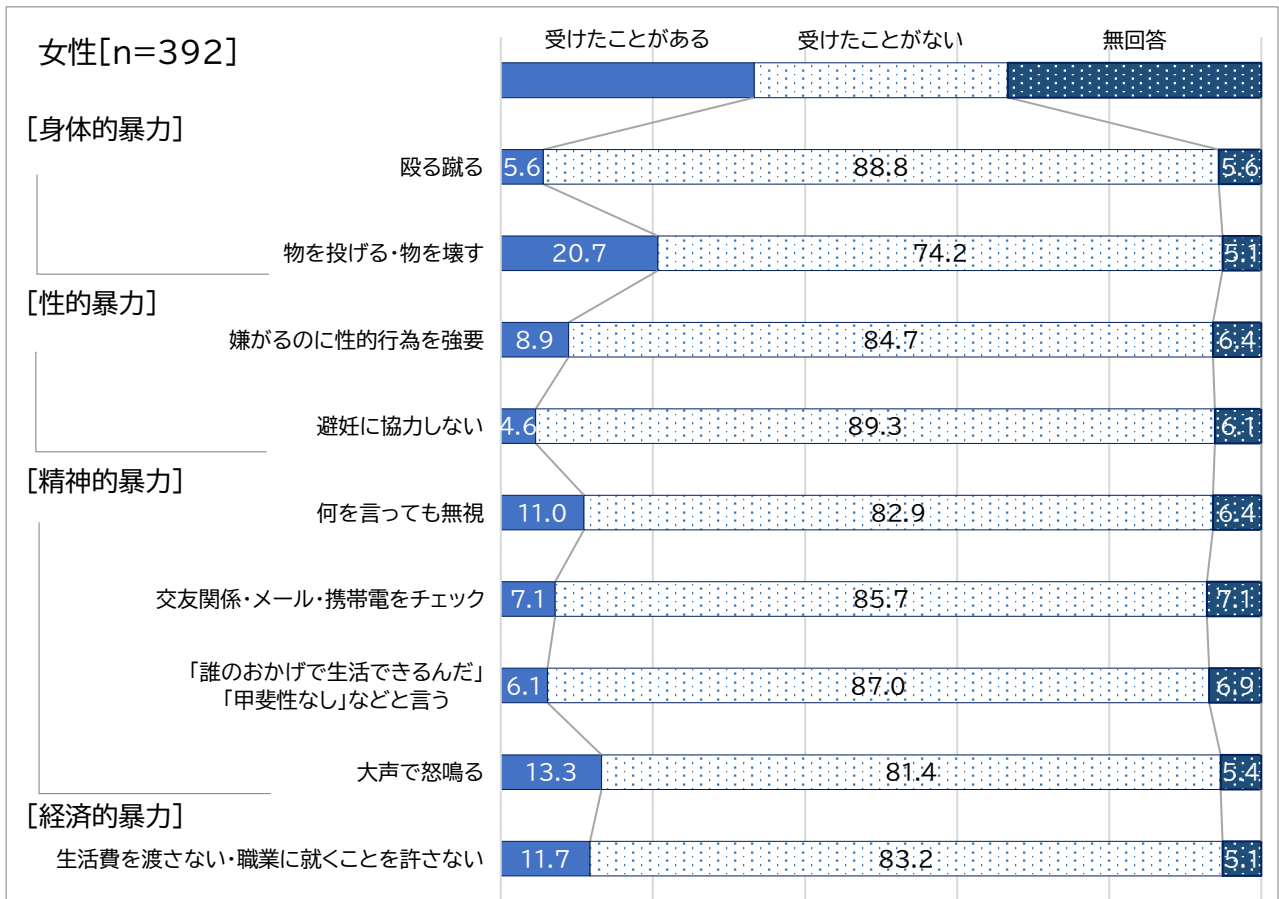
◆すべての項目で、暴力を受けたことがある割合は女性の方が高い

全ての項目で女性が男性よりドメスティックバイオレンスの被害経験の割合が高くなっている。

暴力を受けたことがあるの項目では、全体では『精神的暴力』の「大声で怒鳴る」が15.9%で、最も高く、次に『身体的暴力』の「物を投げる・物を壊す」が、10.6%となっている。

女性では、『身体的暴力』の「物を投げる・物を壊す」が20.7%で、最も高く、次に『精神的暴力』の「大声で怒鳴る」が、13.3%となっている。



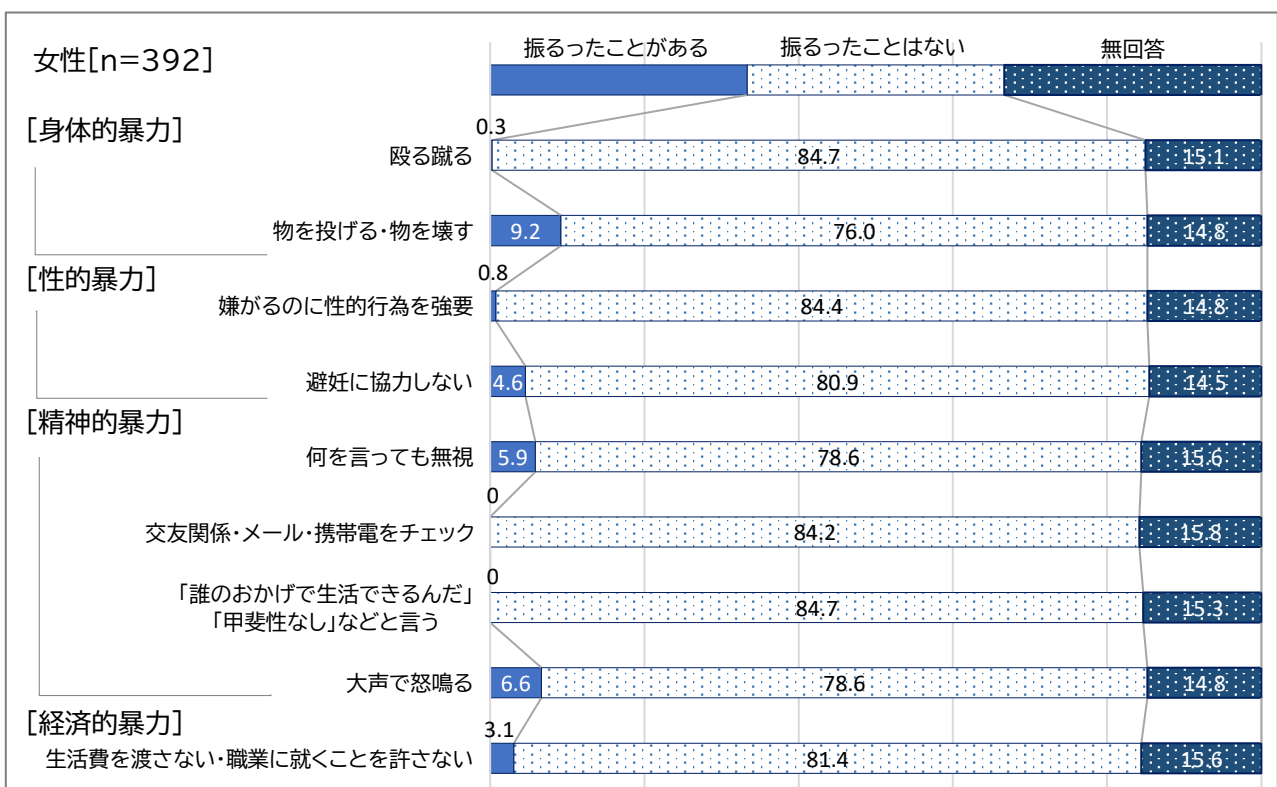
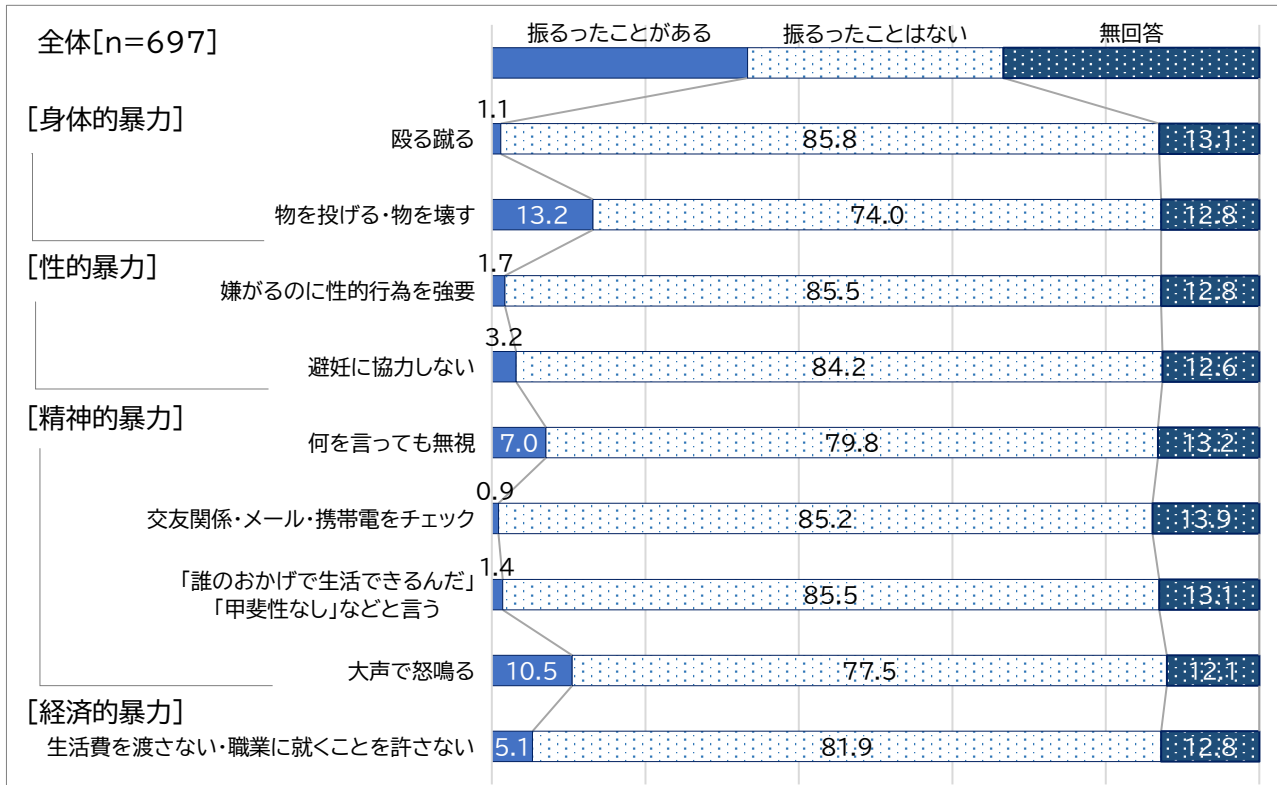


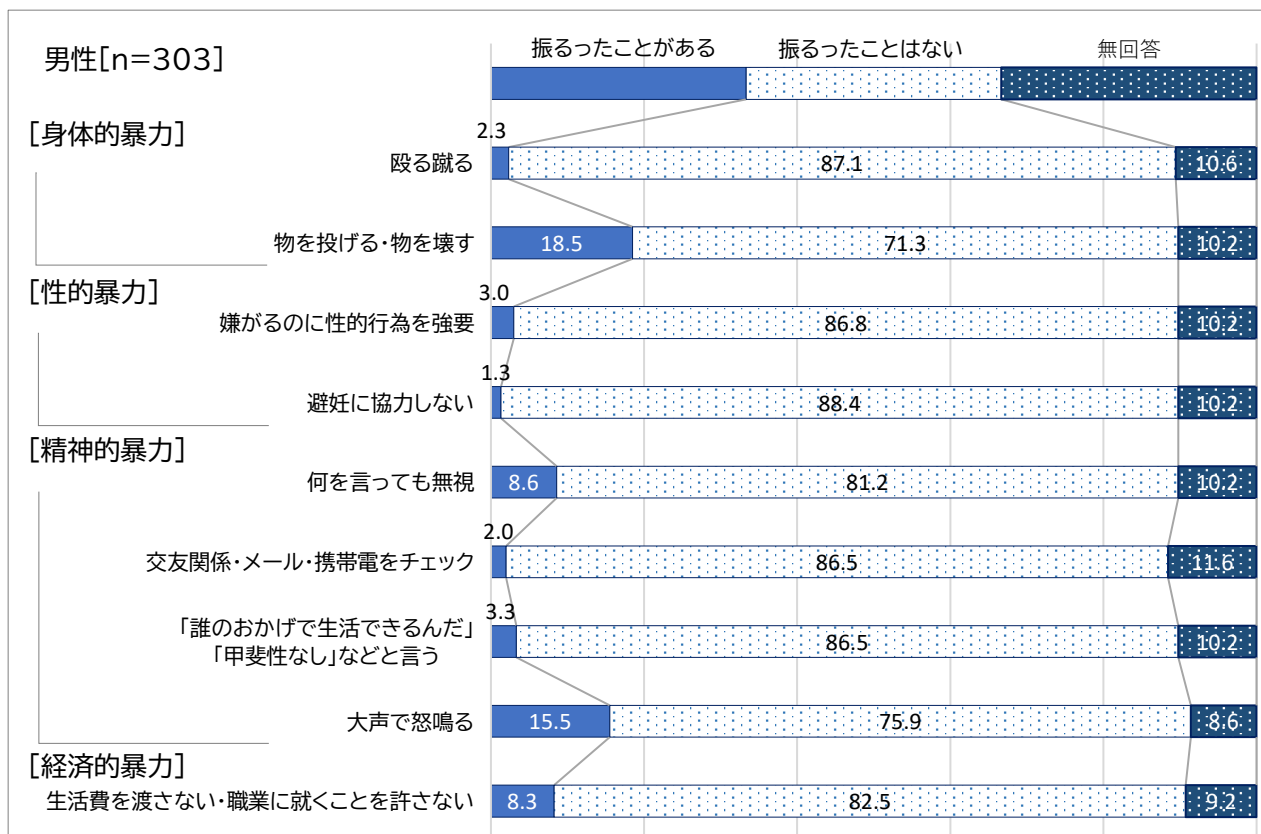
(2)DVドメスティックバイオレンスをした経験[加害]

問15-2. 今までに次のような暴力を振るったことがありますか。

◆男女ともに最も多いのは「物を投げる・物を壊す」

暴力を振るったことがあるの項目では、男女ともに『身体的暴力』の「物を投げる・物を壊す」が13.2%で、最も高く、次に『精神的暴力』の「大声で怒鳴る」が10.5%となっている。





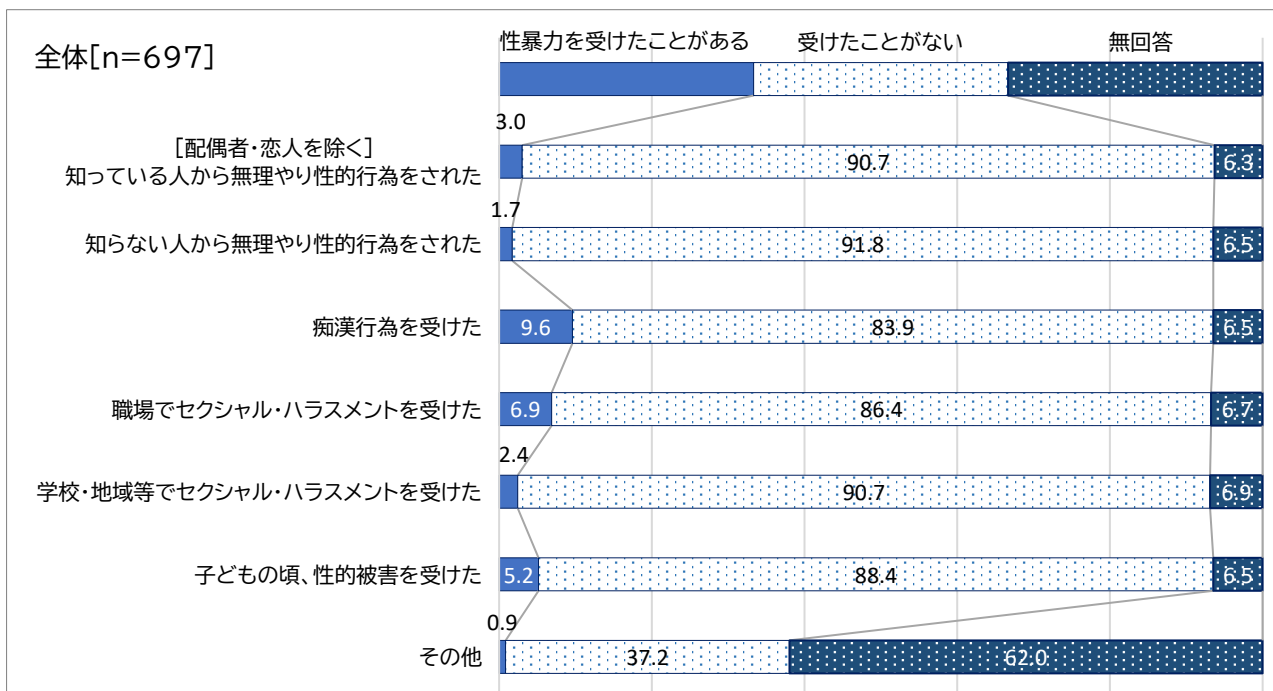
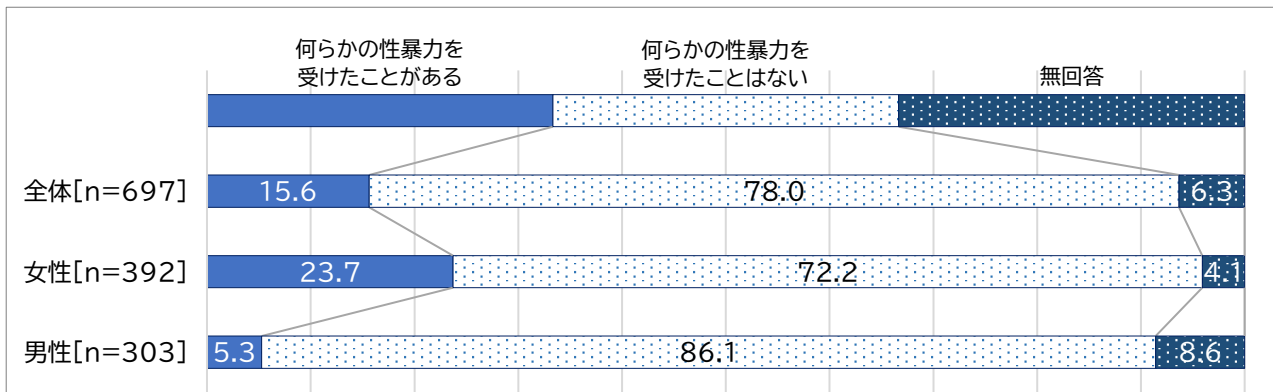
(3)性暴力を受けた経験

問16. これまでに異性から性暴力等を受けたことがありますか。

◆性暴力等を受けたことがあるは、女性が2割強

「これまでに異性から性暴力等を受けたことがある」としたのは、女性で23.7%、男性で5.3%となっている。

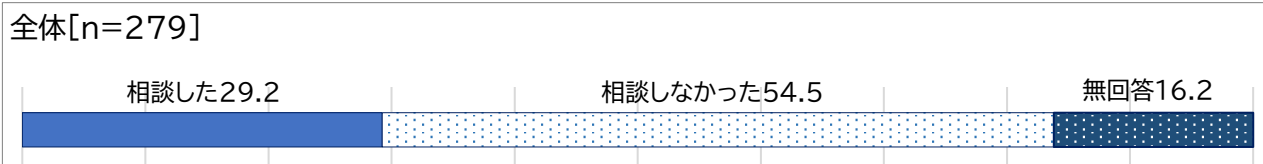
性暴力等の被害については、「痴漢行為を受けた」で9.6%、次に「職場でセクシュアル・ハラスメントを受けた」が、6.9%となっている。



問17. 【問15[DV]・問16[性暴力]で1つでも受けたことがあるとした方】どこ(だれ)に相談しましたか。

◆DV被害・性暴力を受けたことがあるとした人で相談したのは3割弱

「相談した」が、29.2%(H28:20.1%)で、「相談していない」が、54.5%(H28:55.6%)となっている。。



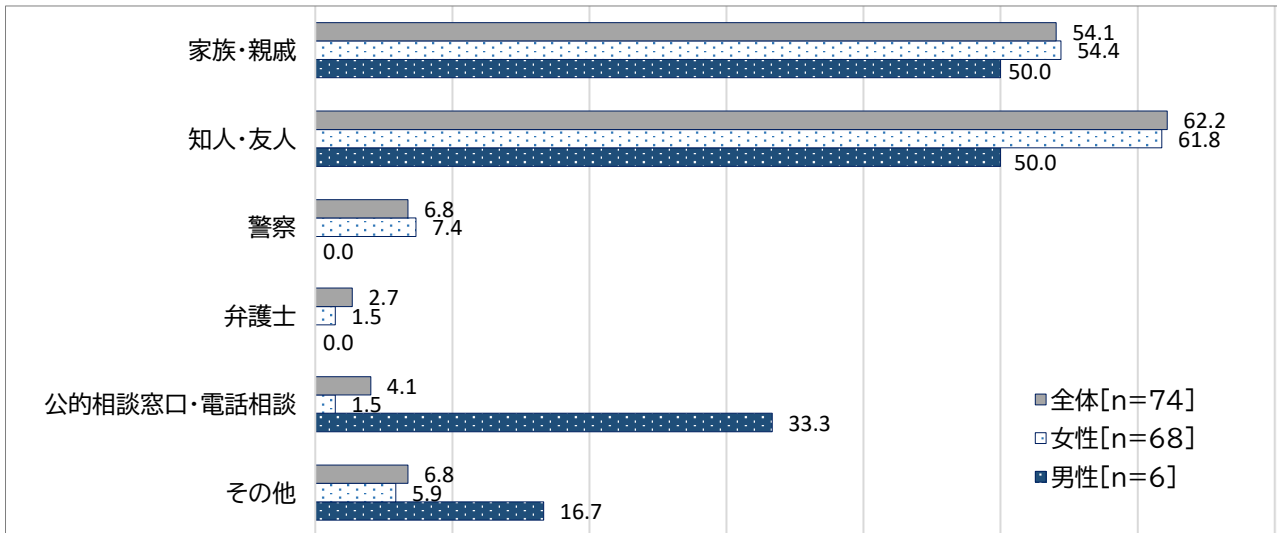
問17-1. 【問17で、「相談した」とした方】
どこ(だれ)に相談しましたか。

(あてはまるものすべてに○)

◆相談した相手は「知人・友人」が多い

相談した場合の相手は、全体では「知人・友人」が62.2%で、最も高く、次に「家族・親戚」が、54.1%となっている。

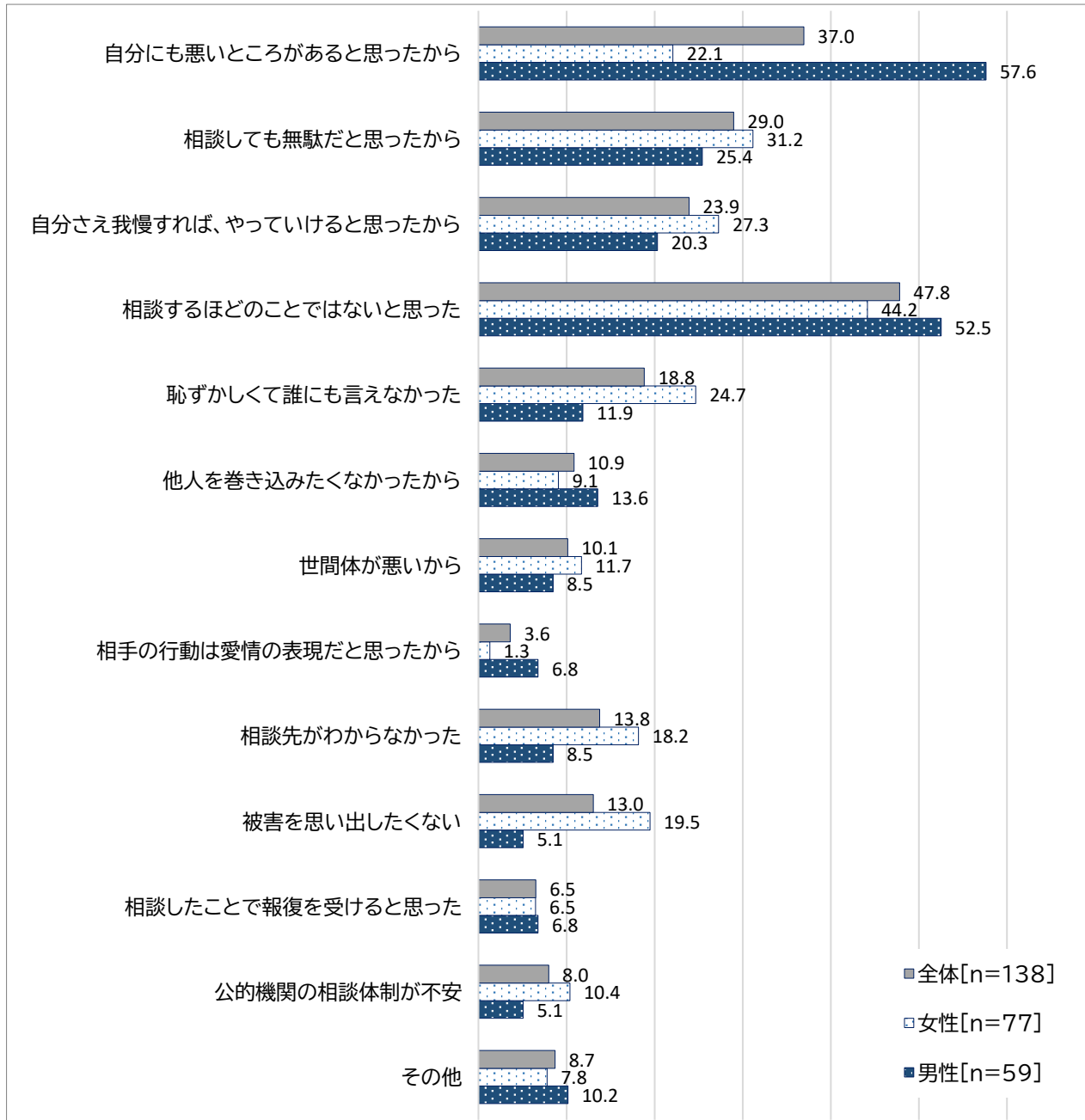
「公的な相談窓口・電話相談」の割合は4.1%となっている。また、「警察」への相談は6.8%となっている。



問17-2. 【問17で、「相談しなかった」とした方】
 相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

◆「相談するほどのことではないと思った」が47.8%と多い

「相談するほどのことではない」が、47.8%で、もっとも高く、次に「自分にも悪いところがあると思ったから」が、37.0%となっている。



●相談しなかった「その他」の理由

セクハラについて勉強していった後に、自分が受けたことはセクハラだったのではと感じた。

酒の席で、触られたりするのが当たり前の時代だった。泣き寝入りの時代。

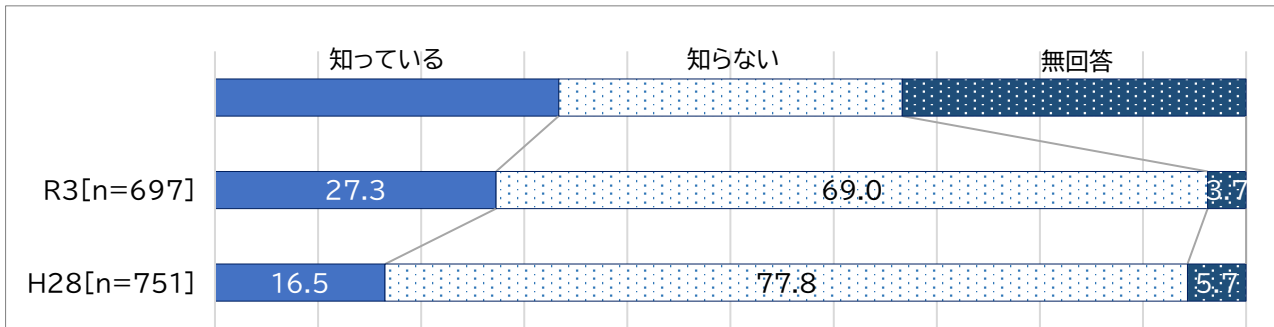
子どもの頃に受けていたのでこれが普通だと思っていた。

(4)伊万里市女性相談

問18. 伊万里市で「女性相談」を行っています。このことを知っていますか。

◆知っている割合は27.3%

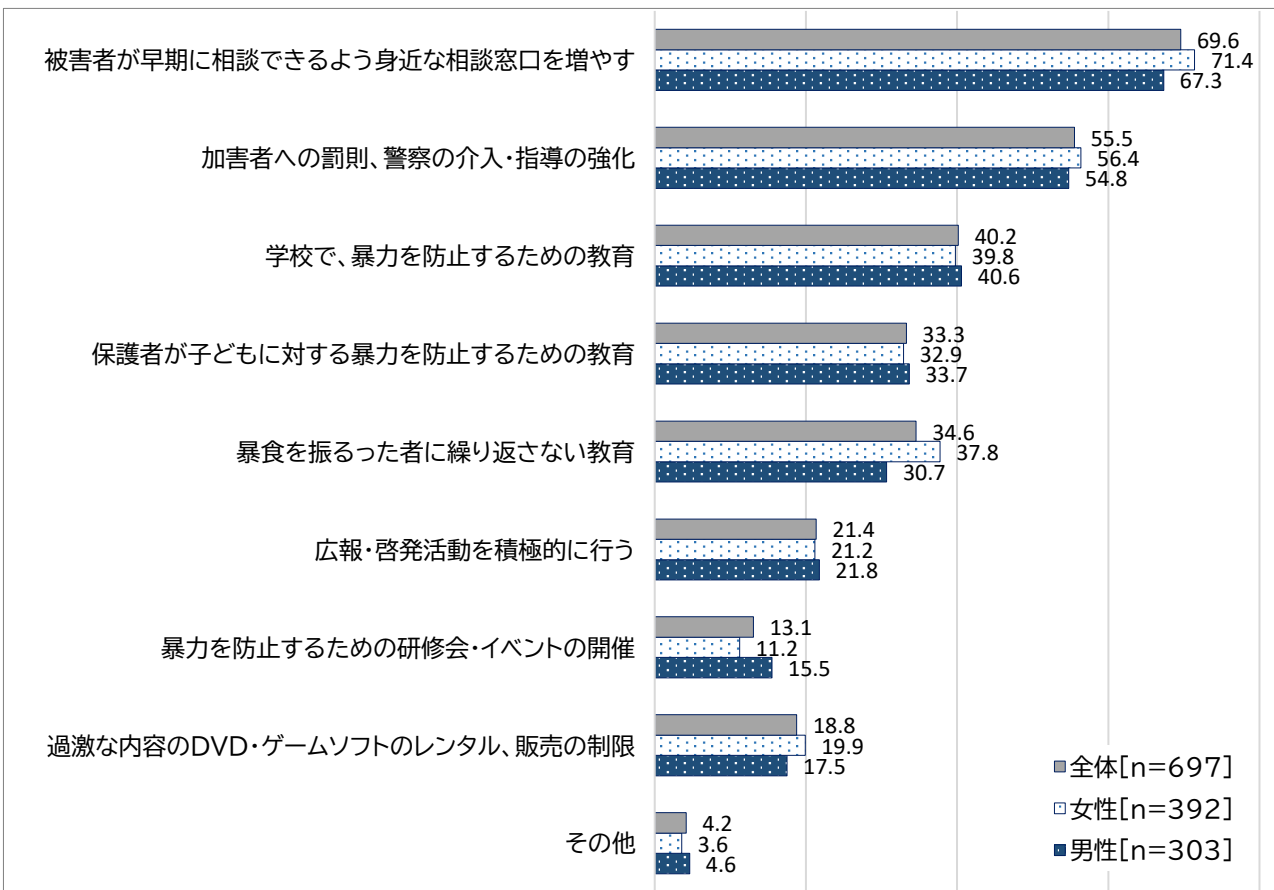
「女性相談」を知っている割合は、27.3%で、H28調査 16.5%より、高くなっている。「女性相談」を知らないが、69%(H28:77.8%)になっている。



問19. 男女間での暴力による被害をなくすために、どうすれば良いと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

◆相談窓口を増やすが7割

全体では「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」の割合が高く69.6%、次に「加害者への罰則、警察による介入・指導の強化」の55.5%、「学校で暴力を防止するための教育を行う」40.2%となっている。



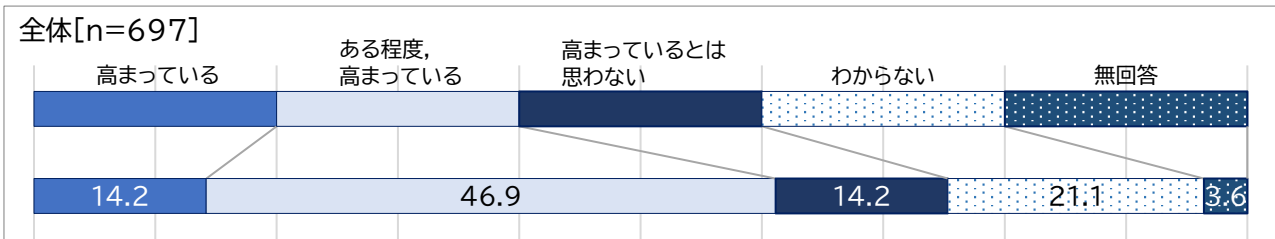
9. 性的少数者(LGBT)について

(1)LGBTについての社会的意識

問20. あなたは、性的少数者(LGBT)について、社会的な意識が高まっていると思いますか。

◆「高まっている」、「ある程度、高まっている」を合わせると6割

性的少数者(LGBT)に対する社会的意識について、「高まっている」「ある程度、高まっている」が、61.1%で、過半数を超えている。

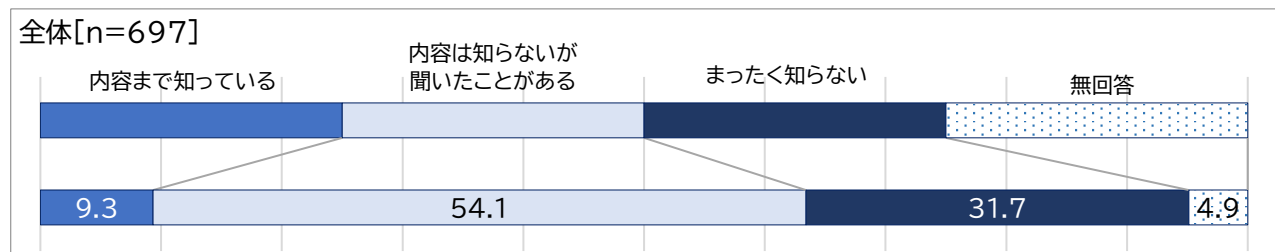


(2)パートナーシップ制度について

問21. あなたは、自治体で施行されているパートナーシップ制度を知っていますか。

◆「パートナーシップ制度」の内容まで知っている割合は9.3%

パートナーシップ制度の「内容まで知っている」が、9.3%で、「内容は知らないが聞いたことがある」54.1%となっている。



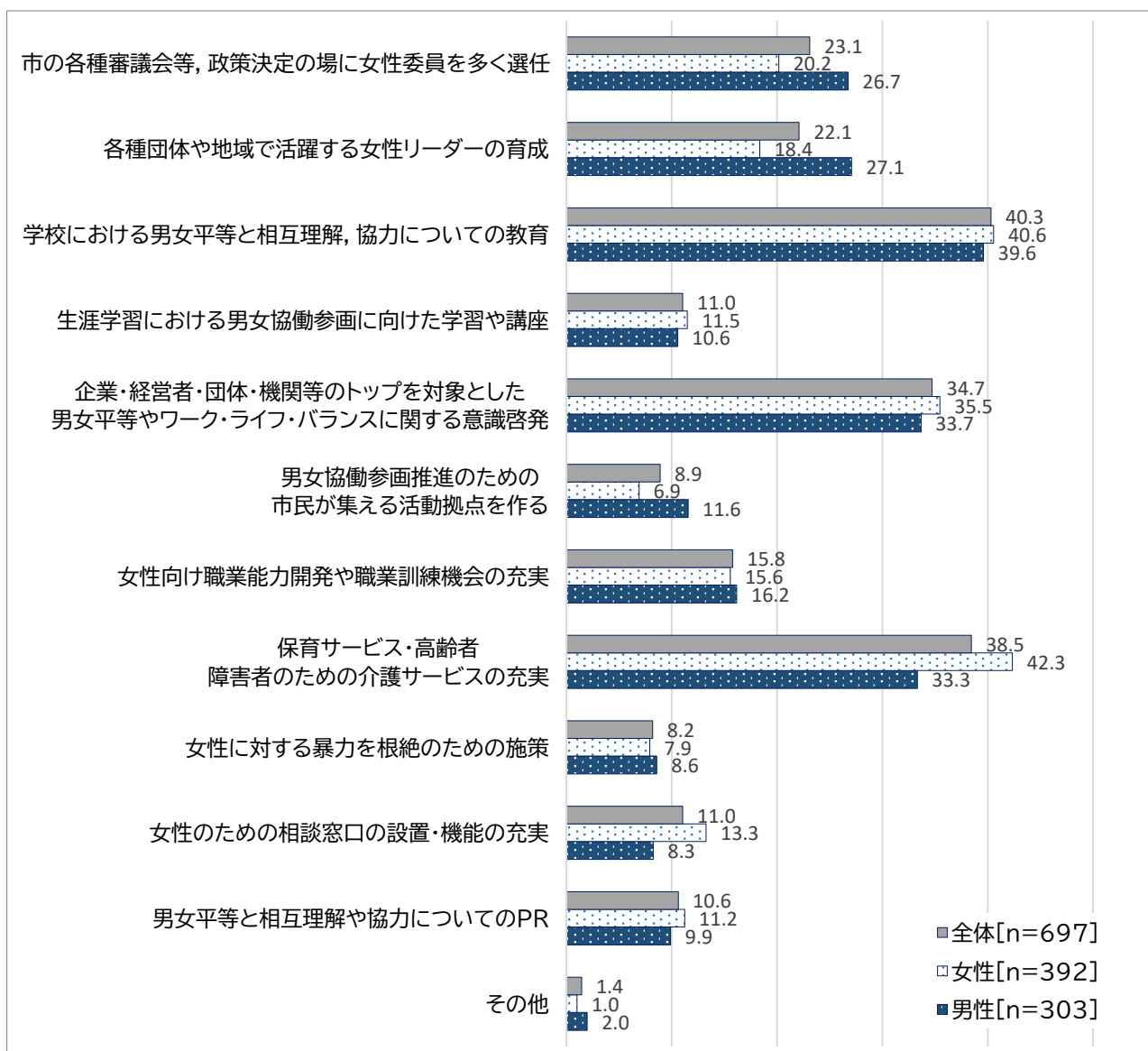
10. 市として取り組むべき方策について

(1) 男女協働参画社会実現のために取り組むべき方策

問22. 男女協働参画社会の実現のために、伊万里市は、今後、どのような事に取り組んでいく必要があると思いますか。(〇は3つまで)

◆学校における男女平等と相互理解・協力についての教育の充実が4割で最も高い

全体では「学校教育における男女の平等と相互理解・協力についての教育の充実」が、40.3%で、最も高く、次に「保育サービス、高齢者や障害者のための施設や介護サービスの充実」が、38.5%、「企業・経営者・団体・機関等のトップを対象とした男女平等やワーク・ライフ・バランスに関する意識啓発の充実」が、34.7%となっている。



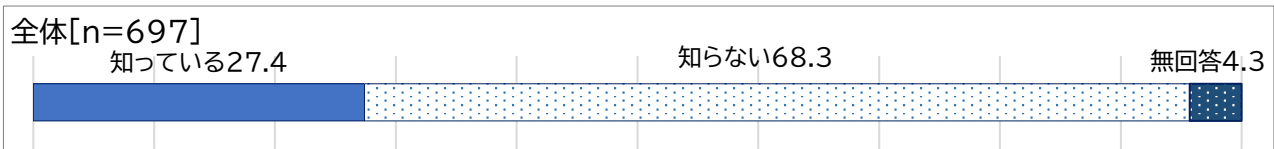
11. 条例と宣言都市について

(1) 男女共同参画宣言都市

問23. 伊万里市が「男女共同参画宣言都市」であることを知っていますか。

◆「男女共同参画宣言都市」であることを知っているのは3割弱

男女共同参画宣言都市であることを「知っていた」が、27.4%で、「知らない」は68.3%となっている。

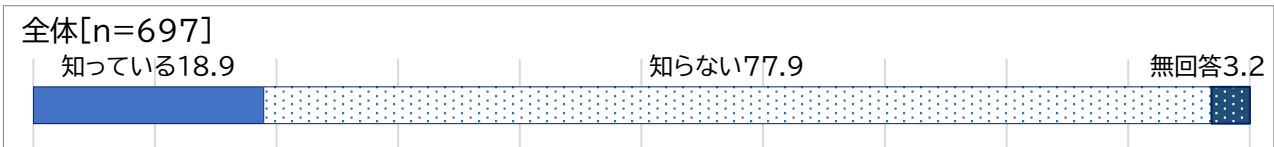


(2) 男女協働参画を推進する条例

問24. あなたは、伊万里市が、平成28年4月1日に施行した「伊万里市男女協働参画を推進する条例」を知っていますか。

◆条例の施行を知っているのは2割弱

「知っている」が、18.9%で、「知らない」が、77.9%となっている。



12. 男女協働参画に関する意見・要望等

昔の考え方が多く残る地域では、いろいろな年齢層への啓発が重要で、その考えが低いところへ続いていくと思う。またLGBTなどの少数者への理解も低い。好奇心目で見える方が多いのが現状。オープンにできる環境も整っていない。少しずつでも確実に実現できる社会、伊万里市になれば良いと考える。

男女協働参画の推進については国・市区町村の行政と事業者や職場等が連携して環境作りを行うことが一番重要だと考えます。その環境が作られることで、それぞれの家庭や個人での選択肢が初めて可能になると思います。家庭や個人の選択肢が増えるための環境作りの推進に期待します。

世間の意識として「家事」「育児」「介護」が女性の仕事というのがまだまだあると思います。男性がこれらのことを頑張ると「いい旦那さん」「イクメン」などと言われますが女性はやって当たり前という感じです。こういった意識が変わっていかないと男女協働参画もなかなか進まないのではと思います。家事、育児を「手伝う」のではなく「一緒にやる」「きちんと分担する」ことが大切だと考えます。男女協働参画は家庭からではないでしょうか。

職場でも子育てしながら頑張っている人がいますが子どもの病気で休んだりすることも多く肩身の狭い思いをしている印象です。保育園等でも延長保育が頼みにくかったり、土日に出勤できない等あるので、子育てしながら働ける環境が整えばなあと思います。会社によってはやはり子育て中だと採用敬遠しがちなので。

女性が社会に出やすくするためには、子どもの遊び場が一番必要かと思う。子を産み最初に家族以外の社会と触れ合う機会は子どもと行く場所だから。女性が働きやすい職業の斡旋なども必要。

男女平等が好ましいと思いますが、力が必要なことは男性が得意で、細かなことに、気を配れるのは女性が得意とするところで、それぞれの個性を生かした役割をそれぞれが尊重して良い流れを作っていくことを望みます。

女だからと言われることは多々ありますし、私は比較的それに反発してきました。しかし周囲の圧に負けてしまう女性は少なくないと思います。自分のやりたいことを実現できる社会にすることが理想ではありますが、まずは男女に役割を押し付けない社会意識をつけてほしいです。特に地方からの進学については自由に出来るようにしてほしいと思います。親が女だから近くにしろ、大学はいかなくていいと言わないことを当たり前にしてほしいです。

伊万里市民で良かった。伊万里に生まれて良かったと、これから先の人々が言えるように皆で努力しなくてはならないと思います。住みたい伊万里。働きたい伊万里へと。

能力のある女性は年齢を問わずたくさんいらっしゃると思います。その人たちが活躍できるような機会を作ることが大切だと思う。まわりの人の目を気にして、なかなか能力を出せずにいる女性が多いように思う。みんなの意識改革が必要だと感じます。女性も男性も出来る女性を認める心が大切だと思う。

まずは男の役割、女の役割を十分達成していくこと。力仕事、機械を使う仕事等、男女平等はいかないにしてもお互いに認め合うこと。100%は無くても80%を達成できれば満点。

子どもが小さいときはどうしても母親の負担が重くなります。保育園だけではなく子育てサポートの充実が必要だと思います。若くやる気のある女性が活躍しやすい仕組みを考えていく必要があると思います。

最近のご夫婦で協力し子育て家事等されている姿をよく見かけるようになりほほえましくなります。急に意識は変わらないでしょうが、幼い頃からの教育が人を育てていくと思います。地道にコツコツとですね。高齢者の多い伊万里市ですので大変だと思いますが、子ども達が少ないからこそ、しっかりとお金もかけて育てていけたらいいと思います。

伊万里市内の男性トイレにもオムツ台の設置、ベビー椅子の設置を公共機関やお店に進めてほしい。早く育休取得や子どもの行事に参加しやすいシステムが構築されることを願っています。男性が育休取得した場合、育休手当のようなお得感や生活に困らない保証などあれば取得率が上がりそうですが、育休証明書のような物を発行して、それを提示すると買い物やイベントで得をするとか。

私達は義務教育の道徳の授業で習い、この内容は常識と思います。学問も良いですが、これからは男女協働参画を多くの人が受け止めてほしいです。

男性と女性が協力し合うのは、いろいろありますが、まずは家庭からですね。家庭の中がうまく回ると仕事やりやすくなるのではないのでしょうか。

地域では今でも男性が優位の慣例があり。難しい問題です。また、女性も男性をさておいては、女性自身が意識を変えてゆくことが必要だと感じます。

女性が不平等、不公平に感じているところは男性に伝わらないことが多いので、女性が積極的にアイデア等を発信していけばいいと思う。会社の役員や市議会は男女比より能力を優先すべきだと思います。

女性の能力の向上が出来る企画と発揮の場を増やし、男性にしか出来ない事、女性にしか出来ない事の格差を小さくする努力が必要だと思う。

日本社会はこれまで男中心であった。これから男女協働を進めるのであれば教育を充実させること。

経済的、生活面の自立へは、男女同じく学び育つことが必要とは思いますが、男の子女の子の良い特性も同じに伸ばす必要もあると思っている。

男女平等は当たり前と思いつつ70数年生きてきました。未だにこの問題の特集しなくてはならない現実に憤りを感じます。一刻も早く「男女平等」「男女協働参画」などの文言が無くなることを願っています。担当の皆様ご苦労様です。

50歳代なのですが、私達が子育て中より男性の子育て協力はよくなっていると思います。しかし、残念ながら年齢が高くなるほど「男にこがんことばさせて」等等など決めつけで男性に協力させにくい社会はまだあると思います。自分がこうならない様決めつけないことを頭に置いておきたいです。又、介護師なのですが、男性には掃除、洗濯、作業等させられない雰囲気があります。でも、力仕事は男性がやってくれます。時々矛盾した気持ちになりますが、女性も守られていることもあります。

働きながら妊娠、出産を経験し社会制度の厳しさを実感しました。また周囲の話を聞いていると女性が働きながら子育てをするのも、経済的な理由であったり保育サービス、職場の理解、協力などの面で、まだまだ環境が整っていないように感じます。

私自身は近頃、そんなに女性だからという差別をひどく感じたりDVなども受けたことはないのですが、差別、DVなどを受けた方の話をよく聞いて、問題解決していかなくてはならないと思います。そして組織の中に女性を多く入れることや、女性が遠慮し、嫌な事は嫌と、ことわり。自分の意見を言える教育も必要だと思います。
